すまひ草　全

へ 5
4446

[illegible]きとき人のこゝろをしれ

[illegible]我身

[illegible]あし[illegible]思ひ

[illegible]ぬ東[illegible]

[illegible]世の人[illegible]しれ

[illegible]道の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へ5
4446

門 へ 5
號 4446
巻

昭和九年
九月二八日
購求

ろふハ去来の月をうつしたれとも
くへきりおもんこゝろなりとう
やほしくれ蕉翁の世をさりて志
出しこゝろうの氣見え給ふ
かゝめ笠をもれこのみを紙
こゝとさるの出しもしるて
文のはしもしなわちまつまくま
連哥のうへをみゆるかなし

いひてあらかしに此このみ師と
ともそ今申れ候しうすと
曰備へ論さり乱も須れりて
出く離所よいてとは輪廻か
物よくの被にもひアを見や
風気くし文字なるハ去毎からふ遠
こよ論をく取もひゝりは又一座
のとよかくハ和漢聯句にありとして

ゐはこゝろまよひ出ては、なれかしを
そもかしんきうのはなのことし
しりそきてこれはなれことまゝなし、
蜂のはなし合点せぬ人
ふかきものあはれ深くしてせぬ
とこそはあしけれあるやうにもなく
しらす事をも耻ぢる人あり
このしんの花を見てへ

其の時はこのいろいろきぬ（ちかきを）
つまりやあらぬ中に
様々の所をしらず
ちかよりて聞きてその口もとを
しりそのまゝそのくさの葉の
はなとなるひとへに根をはなれ
人がおもひの色をわすれは
思ふなりをなかなか去りと

むかしよりなにとなりゆくと
ともかくも風にまかせて身の
うきふしはとゞめてもいとゞあるまじ
く思ひあきらめたる折から雪柴

たとひ草

○岩舟（イハフネ）水をこえてわたし舟の字五句始天磐樟舟（アマイハクス）まで同し蛭子（ヒルコ）ハ三とせを足たゝずおはしましてゆくへ夷（エビス）三郎殿とのやてらうしのよふるかし日本紀にあり○伊勢（イセ）の神（カミ）名所なり伊勢（桜いせ白粉（オシロイ））せ延（ムシロヤ）伊勢の鍵おのちうけれバすれも出るよ一あまのうち神と出てハ名所の内まで流傘と日あまそる神と出て伊勢出ス又そのふうの名所とみえてるらし○今宮（イマミヤ）名所なり（初ハ夜ふろ）あわそろ神名所の様なり

○祈る神（カミ）意より仏といのるハ意ニ祖句でいるよまるへし山伏のいのり目なるらし

○斎の宮（イツキノミヤ）名所なり伊セの斎宮加茂の斎院（サイイン）ある所のことなり傘ニ斎宮斎院ニかけて

○岩（イハ）一座ニ二ツより一岩屋一つの四の句ハ伊勢かはてとゑへても傘ニ岩一ツより一又あるとゞく一つてし

あるよみて一鉄炮（テツポウ）の名也只文字の石山にくし　○石火矢（イシビヤ）
二ツの内に岩橋山ならは又石もよろし　あるよみて一
鉄炮に対を（なくてよろし）　○いさよひの月（水邊に二句去／非季に八月十五夜ハ）
八幡の放生會（ヤウラウ）年中に夷狄（イテキ）を討し時の多くの宇佐の最勝（サイセウ）王経の
ちよ又傘にけるを放つ放生（ホウゼウヱ）會の事なり放生會大放生川にて鳥をはなつ
も鶉なとを放つとも云白河にハ放とも
只いさよひの月とはかり云ハ秋なり　○いさよふ波（非季／許容）
宮（ミヤ）に榊（サカキ）をさしてある
いふ何にてもよし　○家（イヘ）四文字器銭（サイ）の家也出の家ホハ家にて
家づと居所に二句去傘に去嫌（トサリ）よし四の内にて一ツよし
ともに家づとの名也
居所にも風雅にも二句隔凡ても字にてよし家　○家の風
の子又家を隔家の風家のこの家代々作する事なり
家来の人を云人倫に居所に　○家の子
あらす隔家の家の事なり　○家を出る（天象に居所に句／ら家のことなり）

句を隔て傘し出家にてそれより句を隔りて出家と出る也ひし
出家とする時ハ居所に隔て家を云ハ嫌ふべしこれ
○稲光（イナビカリ）雑也なしとはいへとも秋に句を隔て傘と光の字
を句を隔いるひかりとるべしといふ也
○岩垣（イハカキ）居所に付るに又銭と
ても隔又石ても居所を嫌ふ　○岩茸（イハタケ）山の
○岩ほ　仏の異名ハ句を隔しても
よくととのへし　○岩屋（イハヤ）居所に秋銭とよろしみ
○石の山（イシ）（碁双六の石ハ／四句分るべし）　○石に岩よき嫌
七句隔　○稲妻（イナツマ）（妻の字にて句を隔）　○板枕（イタマクラ）非季よろし　○池（イケ）（呂三落とも二池とも）
傘と池二名ある一字隔池切徳（タトクチ）池の尾張池の備前木ハ名所にて水
非季る所ても名の外よく見もはなれて上四句ふるべし
○池田炭（スミ）（炉に冬よしとある／名所也）　○一文字（モンジ）（八ツ之一村百一附折て／切りて八文八ツよう）

ようこと去りかハりあるまじ七句へ七句去と云ハ同し句の内え句々去れハ三句去なり○一門（一座一句物人倫非人）○幾（イクツ）（是二句去二傘ニ）○市（イチ）（是二句去二市の字同字同場居所何も傘之市一句去一山）年の晴嵐（セイラン）（ろどうなり）○庵（イホ）（四代内ハ折を隔つ一し傘ニいつも二つかり又一以上三ツ去り一ツかりしてかへえうしひ居所居宿の内一折くト）○一騎當千（イツキトウセン）（是に七句去なり）○入逢（入の字去の字二句去夕晩鐘（バンシヤウ）比字是ニ二句去入相ハ晩鐘ト出之鐘晩ハ去ハなり）○妹（イモ）（妻句と近き之）○いとけなき（人倫にて非人）（此の字に付ても去し幼稚（ヤウチ）にも出之）○生死（生死ニ二句去命又ハ生死遊魂ろり）○今れかの（今れかの外にも二句去）○いばく（何の字ニ付句去ハ不去）○いさ○いふ（何にても二句去）○幾（イク）日（日次の月二句去）○いふ（うつりて二句去何れも二句去）

○いつれ（いづくいづち何れ）（いづこ）（いつ又は此字を二句去り）○いさり火（あらふ之傘ニ火を三句去）○いつく（四句去二ツ）大五○偽れ（イツハリ）（まこと二句去傘ニ偽空言（ソラコト）と云二ツとも折をくだし）の内いづち二つかく四の内ハ折を隔るよりハ句をきらふ○いにしへ（二句去七句去古の字二句え傘ニ太古上古中古往古古代古今等ホ二ツの内え去りつくと云句を隔てて去るこせき古人古き古年古酒ホハいつれもくれ之句去なり）○いほしり（是一字吹と出之何の字ニ二句え傘ニ連て之を一つ去れハ傘二ツ又二折をへてえらべし傘之命ニ命ニ此のをかきとらゆる虫の命ニ此のを二句去又意の字ろて意の字れとあらふうて命遊魂ろり）○命（イノチ）（二句去さく物の命）○軍（イクサ）（一座軍二傘ニ花軍歌軍之是ハ是宗と申さひとえられ花之し亂れひ抱れし去るなり）○犬（イヌ）（一座のこの一犬狗一戌一何れもれとさるな）○糸（イト）（去るとうへて四句去但み色の糸ハくるよ）

べし○いつまで草 雑なり○いうぜん 此字きらふ
の句より百韻に一つ、全部に上の句下の句ま
であらゆて二つまでし句の中にて嫌ふべし

ろ ○楼（ロウ）高楼の輝く○盧路（ロジ）庭園を路と云也
全部に二ッあり 流 橋は三句去て二句まで一句

は ○橋（ハシ）是二句去て二ッあり二階にて嫌ふべし
の内には上るゝる物のたぐひ嫌ふべし○濱（ハマ）是二ッ
流階の雑なるうきたし七句嫌ふべし　名所を
三句○橋姫（ハシヒメ）人倫、紙衣紙子傘に三所く
きらふ○柱（ハシラ）一名所の神、但句御くよろし。帳柱はく
らの内ニ一句去るはさのみへ別なるへし
○場（バ）四つくほとより見えて二○端山（ハヤマ）に 山の端おそ
まぐしさ嫌ひて七句嫌 嫌の事ふ同嫌

川なとを遠く八七句嫌 余所ニて山五句去○葉守（ハモリ）の神
ーー楢の事也 季にあらず 句を嫌ふべし
えもの五句嫌○葉ざくら（ハ）ゝらくものの雪ハ面を嫌ふ也
離るべし うつして八七句去し傘に嫌
のも竹のま五句去る葉一句と四又え去て嫌の一以上○端（ハシ）
五つ長句より御もみせまたの色ゝ有るへし
仕にさ嫌ふ○名（ナ）とは嫌の名物の名物の
二句嫌 ○葉もに嫌の名文白嫌○花（ハナ）四つに嫌ふ傘に嫌の白猿め
嫌べし○鼻（ハナ）は何から申嫌てい
ぶるみもぶ嫌し○花も嫌五句嫌
よひ嫌のいと嫌ふもの
ふりそふと嫌の○花紅葉（モミジ） 何か嫌ふ
二ゝろあり
○花の露（ツユ）に 柳さくらの花を嫌ふ 何られのちるハ五句去也○はなの香に 袖の香 面を嫌

○花の匂ひ（細のまる人の事 七句まで）○千秋に吉運（ヨキ）（年号を さるふ）

よし野より 萩ハ前より ○萩（ハギ）小萩 宮城野（ミヤギノ）萩ハ宮城野の[illegible]酒ま[illegible]

[illegible]らしつやまに[illegible]これも付るを嫌

○花よりも[illegible]と嫌ひてハ夜之 まつ[illegible]むらひてハ[illegible] ○花の姿（スガタ）花の細（小西[illegible]）

らく花ハ二句之 ○花皿（サラ）（西花之[illegible]八句のうち之式法ハ）花の時ハの花をもむくる物なり ○花の

花衣[illegible]の

汐（シホ）浪（ナミ）千鳥の波（水辺に非ス 但花のちる 神祇ハ[illegible]四句嫌ふへし）○花うつり（西花と非ス 水辺ハ非）

えんゆハ二句之 ○春の日（二永日一 遅日一 以下面をえてきり 春の日二ハ雪ハ折を嫌 永日[illegible]日ハ）

のりとまる 又[illegible]へし ○花曇て（まくら[illegible] 句を嫌）○春風（二表帯 嫌ひて）

又[illegible]一傘一にも凡二句之ハ可 ○初の字（四つのうちまへといふ）

まハ上四ツとちり折を[illegible] いくてハ四く

されバふり[illegible]字なと[illegible]を嫌

そめてしまるてハ三句之 ○柳（ハシ）の字（[illegible]之 柳の字[illegible]）○鶯（鳥[illegible]）

○蓮（ハス）一[illegible]の[illegible]一[illegible]切 ○亭（ハン）一[illegible] 又[illegible]一 ○鶏（ト）

又[illegible]へし

山桜をハ[illegible]桜と[illegible]の枝[illegible]の内に ○花を

又一[illegible]一傘と日を[illegible]咲[illegible]桜の字に折を嫌

結ふ句にハ[illegible]と[illegible]ひ[illegible]嫌ふ非ス ○さくらのきハ上に[illegible]（只二表に二傘二日）

○謀（ハカリゴト）[illegible]傘二日[illegible] ○春の日

[illegible]をれハ[illegible]も[illegible]を嫌ふ二

とかく氷きハ[illegible]永 ○夫の宮（東宮（トウグウ）のまへ 傘日[illegible]とも）

日遅き日ハ春に[illegible]

よみてハ雑之 ○春のゆき（[illegible]ハ[illegible]）○花の

まつのまハ[illegible]

雪[illegible] ○むしの窓（月の窓とも[illegible]嫌）○花の雲（[illegible]）

○花やか（四季にわたる也 二句に）○花聟（ハナムコ）（[illegible]）

○花の都（四季に）○晴る（ハレ）雨の後晴るゝハ[illegible]の[illegible]

[illegible]霞氣の[illegible]降物に[illegible]八雲に云今日[illegible]

の[illegible]月[illegible]に云[illegible]之[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]二ハ[illegible]○濱鹿（ハマシカ）（[illegible]）に[illegible]小家の[illegible]

又[illegible]の[illegible]云

[illegible]○[illegible]

[illegible]○初霜（ハツシモ）（[illegible]）○蛤貝（ハマグリカイ）（[illegible]）

[illegible]○[illegible]○針（ハリ）（[illegible]）

[illegible]○法師（ホウシ）（[illegible]）○[illegible]

[illegible]○[illegible]○芭蕉（[illegible]）

[illegible]者草（シャリケ）[illegible]○原と云字（ハラ）（[illegible]）

[illegible]

白え[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

人ハ[illegible]○遥（ハルカ）（[illegible]）○[illegible]

（に）

○贄（ニヘ）[illegible]別の[illegible]傘[illegible]内裏[illegible]社[illegible]

[illegible]

の[illegible]の[illegible]元日[illegible]

肥後（ヒゴ）[illegible]

[illegible]○庭火（ニハヒ）[illegible]

[illegible]

[illegible]神祇[illegible]

○庭（ニハ）只二寺ニ一皇居ニ一庭の句しハ名所なりけれども
らかはなるべし　庭訓のたぐひあり
○庭に（砌坪（ミギリツボ）のたぐひをりくを嫌）○庭に場（バ）ハ七句去　○庭の脇（ワキ）
山（山にあまた此ハ傘に山なるにハ二句去之）○鶏（ニハトリ）一座に一とられの名所何れも座にく但
（鶏ハ句鋪によりて座にハ此ハ傘に）
とられの名所あり
ぞうけ去嫌也　○尾（ニ）公（カウ）一居（アマ）一比丘尼一　○賑（ニギヤカ）賑ハひ名所の
朝二つ去なし小ぐるまにえ朝（人名鶏ニかけて二つ去なし）○匂ひに（動香七句嫌）○に
とありの下れ句（三句去なし小ぐるまにえ二句嫌）○西（ニシ）（二三方名所儀ぐるまに云て）
又二つもなし　○錦（ニシキ）に（りみぢ紅葉にも傘に用ゆる又ぐるまにゆ句を似る去なし）
花をとハ程ならしとい　○若（ニ）ハる竹の子（挿物に二句去是ハ季をあらゆ之）
名をとんまるやうなまでの

松うけ日夏名けぢ入り
其部ハ春の嫌何も水辺此ハ　○鳰（ニホ）入海（ノウミ）（名所ニ二句嫌）○濁（ニゴリ）（にごり同字）
の也
三句也　○にほりすごしと云詞ニ嫌　其部ハ二句嫌之　○にごりの
句の内は重字此事を以てかまはぬに内の　○場（ニハ）一句とも云一句
（文字ニ二てハ不嫌）
ちやく去りて一以上三之庭の字と面を嫌てはちやうしとみえて
よめハかしこものゝ家

（ほ）
墨（ホコ）一句中一ありて一座に一句也ある嫌的（マト）○洞（ホラ）ニ堀（ホリ）ニ
の所見目釣ホニうしよみたし　わく
面と嫌
ゆる有二句去之　○穂（ホ）（四つえかや似る類之外紙之為の物をそれ似る類之去のまての外なうまでの中之）
○佛（ホトケ）（只二念仏仏所仏名仏法仏道仏弟子よの）○佛二（同ざん如来）
（内又二もてれ何れにも去とよ）
ともに　○螢（ホタル）傘におそくて二つく　○牡丹（ボタン）（ぶてと卅六日てなる季この）
四と嫌

門出のときは二ツにこし○郭公（ホトヽギス）学ぶを結ひても云之傘といひのくでこ杜鵑（トケン）子規（シキ）なとゝいふの内なり○ほゆるとは綱（多数よりて）○布袋（ホテイ）大黒之人物よ形ス袋で附る子好○榾（ホダ）ほだをも冬ある○干瓜（ホシウリ）ほしうりの名これも書よ不好○ほの見へてのほの字四ツある之くし○ほるを老之一○帽子小わ好

○細江（ホソヘ）名所を何しも云の（細江ハ名所之）

（へ）○辺（ヘン）の字四之辺去ハ此方之辺去形不よ二る好○平家（ヘイケ）小家二る（さんふ）○經（ヘル）四之月日を経てのれ之○下手（ヘタ）一之手之七白好○部屋（ヘヤ）酒べやなんごや、アや名の共二斗なし○瓢箪（ヘウタン）腰よさげいちさ炭取ちのよきれくて入物よ少も不好○紅粉（ベニ）口よ付るなよく云之

○彩（ベニ）小いれも二ツ云粒形（シモジ）様

（と）○豊（トヨ）の明（アカリ）おぶさるゝ此の字ふ云る好之傘よ青中の辰の日之五節此節時間よ行りまさ日本紀小宴（トン）乃字とよめ行ふらしよむ是いげ其の義云ともよめの何ふし之く八色ちよしぬ白も云之しち脈て大るさ歳の是節会○年（トシ）四之を云二禄ん二何を年ふ正月をおしよし○年（トシ）両と好年徳之年四川の内之○年（ト）しよしよし小七る好○虎（トラ）里小聖（サトラノ）多不先不之傘之捺判○戸（ト）八ツくさ分ふとさし○戸小（上戸 下戸）二る云○戸を明られ家の内きる名不ハ二る之○とさし居不よ（二る之）○戸と扣（タヽク）戸をたゝきよ云之○戸小窓（マド）まざし七る好何まの戸ハ居不よいつしい傘小○直宿（トノイ）ゆる戸ハ義不よ不のみ之ても五ツ之おくる之

○苫葺（トマフキ）居所に二句之 ○苫屋 居所之句迄に絶スる㋣乃とはあるまじ又よし
○苫舟 舩に打越物 ○友（トモ） 二ツ人倫之供（トモ）あひ二ツなりて物の友あるハ朋友とある
まして それも嫌ふ之事 ○殿（トノ） 町殿ト上臈とのごとの内よまかふ 二諸殿と云と云げけるも
鉄の友も四ツの内之 宮殿（キウデン）殿上よろしくされるよみ ○床（トコ）掛く
武内んおとう見えし
て又四之そのしでんものやう、宸表に在て了し
唐禅の床 寝安の床 簗（ヤナ）筏（イカダ）木の床 鉄は床 何れも
取て絶スるものありて 床の字七ツ 嫌 傘に床居
下よ言ふに一句之物より二以上之一つ之 ずかのよきをも 床の字之
床の山 床の浦 る内に一面と云つて在べし
○床よ ゆうしき 二句嫌 ○木賊（トクサ）子 木の字ありて ○鳥（トリ） 只二喜の
多一小多一村多椎バの多 一面 二句れも面をさして在べし 鳥一秋は 傘に鳥
只一喜に一小多ノ村多木の内に一喜ノ鉄と云つげて一句の鳥ろきさ

稲の穴るまハ名ある之 右四ろハ是奥の居之 ○鳥甲（トリカフト） 鳥だてきある
鳥ら総ハ絶てらしく まかりよりよ 又一以上五之 生類に不嫌
○鳥居（トリイ） 鳥の字 居所の字 居よ二句之 ○鳥の鳴（ナク）に 鳥の鳴ならを何 是も付句に
○鳥の巣 鳥の巣ある 居所に絶ス ○とりくの花 生類によりてを 嫌の鳥之
○虎 一寅一虎毛（トラゲ）の猫又之一傘子きある千句にも一の鳥之
されハ俳にハよさぬ鳥人也了
○鳥の鳴（ナク）に 鳥の声鳥の音 あるじけれも七句嫌 ○泊船（トマリフネ） 水辺なり 鳥の字 舟に二句之
○泊（トマリ） 水辺也 舟泊 ○燈火（トモシビ） 一法のともし火一灯 籠 燈 又ある傘に灯一灯の灯
一法の灯一ツ 常灯 灯籠 燈台の内に又ありし以上四之 ○ともし 夜之嫌ふ之傘に 夜の嫌に床をさる
るく其の 三ツのかき照射（トモシ） ○遠（トホ） ときかのくとき浅き
火之灯の表にあるかぎり 同の字付句あるは傘か

ゐどの字　○止（トドム）に堰（セキ）あり傘は句移より　○遠（トホ）く
三句去　ゆきしうしん
とゞまるる
とまる二句嫌

（ち）千早振（チハヤフル）千の字三句去早の字　振の字二句嫌　○千の字　四せんと云とて又四こ
○千里（チサト）非面など　○路（ヂ）は　春路（コケヂ）去嫌なし　もきらひなし　○街（チマタ）路の字に二句嫌
○中風（チウフ）風は二句嫌　○路（ヂ）道に三句嫌毎の名学のたぐひのけ路　ぎやう
のぞ外又印し傘に路　○薺（ナヅナ）の花の比は菜のほかは路雲ち
此字三句去し　○塵（チリ）二ちりの世ちりも二の内くちんこみちん抔と云
又空と又さ　なと又二句嫌又一傘に一貫
一つくし　　　　　　　　　　　　　れ外をも嫌傘にちり
云ふて去て　○散（チル）花ちるなどにかゝりては三句去と花もみな
するに三句く　○散の字は面を嫌傘に五句の字は字去く

○児（チゴ）児女　稚ちご　稚子の内は又何と一児子子面を嫌
○茶（チヤ）只二字の外茶せん抔の外
えご十一　茶塚茶せんぼしまゝ　茶屋一所にも抔をとまて
但茶のことはとも出るは一句く　○契（チギリ）只二字に
○律（リツ）の網（アミ）刻之　○龍神（リウジン）ともに二
（り）○律（リツ）の縄（ナハ）　　　　　　　　　神ハ水辺之
○龍宮（リウグウ）水辺こ　非神祇
○竜（リウコ）の滝（タキ）水辺之　○里（リ）一里二りの里也　又非人　人倫家かん非人　○里（サト）しくん
りんぐりの浮く恩要字を云語くは是宅家の由説りんぐりとし
行れハ和りし州一と抔をまて秋之

（ぬ）
沼（ヌマ）二　○幣（ヌサ）帛（ヌサ）ぬさつく　神祇之　○主（ヌシ）又三人倫と兼ス何とも主ハ人
まう主に　五ウ（？）君と○塗師（ヌシ）人倫之外何とも
主人倫二　ぬすミ　人倫之女にて人倫兼ス　○ぬれん
るぐの三字のを捨りてのれも四之を捨りるとも又裏が傘に一傘に
ゆるんつくんるのを捨りて三句もたるべし　まりみつるハ七句去く

○ぬるゝ（ぬれて二句嫌袖を）○早ぬの（ぬの字二句こゑのぬハ付句さハりを嫌）

○濡（ヌル）水にぬれてハての事を嫌 傘にぬらし分待を入て云ッ之 ○ぬらめ、衣にハ二句まで也

○縫（ヌイ）の小袖 小袖ぬひ衣 ぬるふ 袖まくらの そぎり七句嫌

（る）るての句 まくバ六ケて去べし又 みるゝ みどりの酒二句去之 ○るり硝 二句こゝろある うつろひぬれなどの 手のかゝるの句同し ○るゝん つゝれぬれのるゝとハうつろひ いろる らん伽らん ふとの結ハ度に不嫌

（を）○国（ヲカ）只二条に二傘に上之人の 名字ならて云ても 四つの内之 ○小墨（ヲグロ）二条に二 少逆小町也 四つの内に打越去て去之 ○ 三ッ之人の名字も三つの内 傘にも堂 ○遠近（ヲチコチ）二句去 沖二 こそ二ッ一とちらと云て又をきちをちらし沖ハ二ッ 傘にをちこち施 も去之しをちこちにきこちちをちこちも二句去也 ○一遠目（ヲチメ）

一去の目まあり嫌 ○小舟（ヲブネ）一あまを舟を去一小舟ちいさき舟ハ一 ○小吹（ヲトシ）小ゝ 二句 ○ のたとに 小のをとれ小の字不嫌男牌と 書けくこさそしるふの字付句嫌 ○女郎花（ヲミナヘシ）一とをミ一有 に女気不嫌 傘にも女の字にお好き嫌 女らしく 六ハとゝ入て今一ッ去 ○をし 添ての 一し男ゑべしと云 茶子を兄二乃うちこ ソ経のるゝ二 ○をとのやくらし 雁ぶ ○踊（ヲドリ）秋之季の物一条に二之 生れのをどりひまあ 挂物に二句 ○ をとりハおちぶ ○落葉（ヲチバ）色（イロ）おち葉ハ去ろれて色の字不去れて去之 ○ところひ くるてみえし ○ おちるよ みえし ○小笹（ヲザサ）竹包を ○音（ヲト）に 二句嫌 音羽ハ句嫌信の 字とそうそてよむ方に ○親（ヲヤ）に子 二句嫌 ○乙女子（ヲトメゴ）小宮衣沫祇 是二去にも二句 ところにも出る 四つし傘ハ女ハ 去 千句ふ一の物あれハ二つハ去 乙女のことハ 同字あれた面とらてもこし 乙女郎ハ女まをを嫌め松女猫め大めとの

是ハ今はなれハ女ならも女性ならも七句嫌ふし人倫ならバ女房女性なと
あらゆる事も二つハ是への文は女の字多く出ひ候ふ事なれバ是
ふ一つて是をとぞ〇女ふいとくむすめ〇鬼（ヲニ）一おにゆうぞれなる
あるべし　嫌　の形の門みすをそえて
見付〇おろか　近隣に付よす
でし

(わ)我若（ハガキミ）（王実主君などいふ大君おとなふ人倫の非之）〇王に（ならひての王の次名諸王おとなふ）十王面とさしふ

〇王て（四天王なとハ三句去之）〇和田（ワダ）の原（ハラ）（海ふ義を嫌田の字不嫌）〇和前に

和歌（ハゴン）（面と嫌）〇別（ワカレ）（只二意三季又別れの意三きぬぐハ云りかた）〇渡し舟（川道）

〇仮寝（カリネ）の夢（ユメ）（旅之）〇旅〇恋の別れ（きぬぎぬ二句嫌恋の八七句去）

旅之〇旅のまくらふ〇別（ワカレ）に（えむけ二句嫌字の字又同し）〇こわされ（ましか　あさ二句）

〇纔従（マヾ）（居下よ二句之）〇わさ田（えいほ二句之）〇別（ワカレ）小（除二句嫌人の　なふ名の除）

若ならは別なる嫌傘に恋の心そえて是帰ると云いで七句去べし

常の別ハ是ハ嫌しうよりしふ別なるべし

〇若菜（ワカナ）（只一季て又除ろ一）〇若葉（ワカバ）（一季に一ぶ木一ぶなおとつよ）

〇若衆（ワカシユ）（恋之若衆若武者老若）若僧なと嫌　人のわうへの面をさし嫌〇脇指（ワキザシ）に（刀太刀面を　さし嫌）

〇鰐口（ワニグチ）（是れにも嫌ろにの口て）して（八是ぬふ二句之）〇蕨縄（ワラビナハ）（之人わかゆうくれ　垂ておやす八種）

（ぬふろう）〇われ茶（雑之分ん茶つかふし説戒　ひそひて八意之恋の字に二句）〇綰（ワタ）に

（ものん二句之）〇われたこ（雑の字ふ二句之）〇こうこ（ぬひた名くし）

(か)神（カミ）（只二名の神一名下の神一傘に神四内一つハ此神天神　当神なくしあらうましてえでし神くとハ是ごうし）

○神に（神楽（カグラ）神事神主なとハ面を嫌／傘と神と神と神ハ七句去之）○神無月（カミナヅキ）にて（面所三／句去之）

○神に（名所なとハ三句嫌／傘に付ては不苦）○神ま（神さびてと云詞七句嫌／傘にみさびとハ上久）と云古宅名所深山湖池なとの物さびしきを云ふハが

み付ても不苦森社ハ祭の色ある詠るべしとかみさびといで沖（四の門之上久と出時ハ／神祇の云葉しれス）○かげろふ（新之けろふのゆるふ／春之虫のむうてハ結も）

傘てかげろふ縁して古今の前に窓よとやうしめかとしかげろふのもゆるまての月しばらし也とよめるハ陽炎（ヤウエン）と云て春の日のあたうにます時甍（イラカ）のうへなどにちら〳〵と眼よさくきる物とてうんがりと云虫を秋津と云也日本の国の名とし蜻蛉（カゲラウ）に似てたる物よあきつ蜻蛉を云也日本紀よりあきつも蜻蛉（セイレイ）も皆かげろふ也されハ糸遊又以虫をかげろふと云ハ一所におしちら〳〵しきのさえしんれハ此作を見書て夜をちめのみえず陽炎の如きうく消るによりてかげろふとよめり

○渇水（カツスイ）過る川

也の字付ても不苦○川舟（旅に非ス浦にてもつなぎたる舟／何れも旅に非ス但の川舟ハ旅なり）

○神佛（カミホトケ）し（つゞきてハ神祇尺教／出すれハ二句去之）○神楽（カグラ）（社なと云之傘／に神不可又）思ひて一夜ハ千ホの門○杜若（カキツバタ）（只一句ほと花ト／又可べし）○首途（カドデ）に今ハ一ハ上こゝろあり

門の字七句嫌出の字に○からびたる家（ガ）（只一居所にて文哉を嫌う／されバ家に母をゆるし家の）二句去下に何ト云をそをらる母のうちを○春日（カスガ）（春の字日の字氏にあるも不嫌／霞ゆらしけきし嫌）思ひらし同意也

○門（四之もんして云へて又二句去へし傘をりんと云之ても）己上四の面之がゞでぞ違ひ書不に何のみし但くして一門出一ツ上二てぐらすてよ門面を○門よ（二主ハ山ハ門／嫌ハ面を嫌）嫌門出と云時ハ門四の内あり

○かをり嫌色や（杉の下もるゝゝ云句ハ嫌秋之色とも云／字入ても嫌秋なるも作法之）

○門ニ　戸　窓（マド）して　○垣（カキ）見まがへ　隣垣（ヅカキ）[illegible]
[illegible]　傘ニ
垣之竹之垣は　○垣ニからふ　霧（キリ）のまがへ　○、からふ時雨ニ二
籬（マガキ）面嫌　[illegible]　句之
○かけ露は一季也　川やみの[illegible]作意て
[illegible]
[illegible]別也　○上（カミ）八人之人と[illegible]又八句も野分表ニ一句[illegible]
ぐくし　[illegible]と云て又四之時の句ハ折を嫌ふこと
志[illegible]七句　○枯野（カレノ）[illegible]いはれも
[illegible]嫌傘ニ[illegible]
[illegible]　○狩（カリ）[illegible]二嫌ふ二川かう一代内[illegible]
折を[illegible]　カヘデ　もみぢの　○鴈（ガン）[illegible]表ニ[illegible]
○楓（カエデ）を嫌　○鳫　[illegible]二折ニ二句[illegible]
[illegible]
○蚊帳（カテウ）折ふし傘ニ[illegible]て又　○かさ孫字[illegible]
[illegible]別の[illegible]

[illegible]付句ニ[illegible]傘ニ[illegible]　○鐘（カ）[illegible]
羽[illegible]二ツ[illegible]　○[illegible]
[illegible]　○鐘ニ　響（ヒヾキ）[illegible]
[illegible]　何も二句嫌　○かしる[illegible]
○風ニ風[illegible]　○かいこ　一子の字[illegible]七句嫌　○看経（カンキン）
[illegible]二句[illegible]
霞（カスミ）　○二霞ニ[illegible]二句嫌　○風ニ[illegible]二句[illegible]
[illegible]二句嫌[illegible]風[illegible]　○冠（カフリ）衣[illegible]傘、冠[illegible]
嫌傘ニ風の字二句[illegible]
[illegible]付句[illegible]門の[illegible]　○傍（カタぐ）ニ[illegible]片の字二句嫌　○方（カタ）ニも[illegible]
冠[illegible]
片[illegible]　○数（カズ）の字　二之[illegible]十を六面を嫌[illegible]百千万[illegible]嫌　○かざしの錦（ニシキ）
[illegible]傘ニかざし　○片敷（カタシク）[illegible]
[illegible]

みそかにも用嫌○かくこハ（津をかくしの意の字二句）○かくごの
傘に嫌ふ字同意（かくるゝハ二句去よ）
軽く取○笠（カサ）（一前にかさ上物の気代に笠一ツ笠抔一句にて　ふと気にならずとも何も折を嫌）○笠れ（可也嫌ハず）○うへ
りうるにてころ〳〵（式も二句去）○かち栗（クリ）（植物に非ス）○返（カヘス）（帰（カヘル）此字二句去）○竈（カマド）
（大三白嫌）○頭（カシラ）の雪（ユキ）（多ハ非ス可也　非ス遠慮なく）○霞（カスミ）ハ（雲を讃の春之雁に秋　いかで雲ハ実も立之此所ゟ）
（つよふかられて来し）○影（カゲ）（景（カゲ）陰（カゲ）此字諸二句之目ゟ人げハ　京之新の字ハ二句去く）○陰（カゲ）に
（もしきかられお二るに）○合戦（カツセン）一ツ宇ふ折を嫌○かふと云（組二句之ハいう　にとも云ひやうれを）
（やのれの組の字二句嫌）○唐（カラ）（ハ何れも二ツ此字折を嫌　争子ありて一切を嫌）○雲あり（雲とのなる　ハいの字）
（二句く）○柿（カキ）（只一名　下之一）○刈田（カリタ）（ハ人也に二句之田とうるゝ字をるべく云　て嫌ふべし傘に刈と云字除くて）

二之名字をハ字ヲ形と二の折へ○かりかしのやかくのるの
るつとるゝハ三の内之人倫に可りそ　ゆうきもの色をきらふ
○かよふハ（五字ヨ一只二三尺水ゟての　手か西とゝくて来し）○川のもぢ（多く非ス　秋也）○川
ゐの雨（可雲事に非ス　名に也く）○鰹節（カツホブシ）（ハる鰹木のきれ名也に非ス　生れにおふてきしめ）○げ
の葦（アシ）（陰鈍（カジカ）植物に非ス　甲二句去り）○蝙蝠（カウモリ）（非ス　し）○哥仙（カセン）（仙人倫に非ス名　といへど人倫に新く）
○刀（カタナ）（大刀小刀此字折を嫌鋪ハまで　嫌菖蒲刀ハうつろふべし）○鹿（カ）をさして（ゟ言）
秦の二世の王逆臣（ギヤクシン）趙高（テウカウ）と云者我威（イ）を
ためさんとて鹿をさして馬と云し古事也○かくろのとく云詞
ほぞくりて金傘に袋一つ（カヌル）ゟふ一物後一夜とかゝる平家隠ろうゝの内
一へ上三之仏語論語なとの字ゟつよハ字もいらうしるべし
○雁金（カリカネ）よ（嫌ハでなよそて七句嫌傘にハさらぐて　嫌ふらいるくもまる三句去に）○悲（カナシキ）事と云

絹（二すくりるずし）○買（カウ）の字（ぞッ）○紙子（云れ）○庇の
（傘与絆之て三し）
網（アミ）（表之為迄うれ久）○かこ所りに（しろう清（セイ）浄（ジョウ）のかうの阝く二句嫌得て八分よろしずで）
（るびきる二句之）
（と二句）○しかし前（と云網二句ちらし）
（嫌）

（よ）余所月に（見る二句嫌之只月まで表てるぞかぶ又の字ハ）○代
（ふ嫌傘によそと云羽意三只一八上三之）
（只二弥代一傘三丢ゟ代一弥代一又）○世（ヨ）に代（ヨ）（嫌二句）○世（只二）
（代しあらによりて以上（ドン）伝（ツ）ぶり）
（二仏つ世二意二浮世類世出世膝之世首世の人ハ傘世前世浮世ハ仏）
（世こ何も面白嫌傘世とくの古ハ折を嫌出膝仏世白与傘ゝ匹）
（世出膝の世仏世意られ云）○夜（ヨ）を待（マツ）（月附合引句とても）
（ぞて六ちを面とすよし）（ぬ）（旡又夜の字ハ字去）
○夜の見所に（嫌）○夜（ヨ）半（ワ）（二句 三月二傘ゝ 三月三よひ 今二月 その三月 此三月など）
（今二月ぞの二月此三月などの）

（門又何くし首附なく）○よもぎ宿（極ゐし）○蓬（ヨモギ）生（ウ）
（れ久称の字にてる之 院ゐ之）
（孫何の三句によりぎよ斗ハ新所二不嫌傘よ蓬ても可れ沢伴）
（素所すらるの蓬（ホウ）莱（ライ）の字られ色ちえて四斗ともし蓬二ツ旻ゑへ）
（ヨ一旅当蓬莱なびらつあらりて云乃二ハ上四之）○齢（ヨハヒ）（ヨイ）
（そりずよあぶそよなどのふれ字おそとすよしの）
蒐（ヨイ）与嫌但○余（ヨ）所（ソ）（只二意二傘ゝ）○夜（ヨ）の明られ
（句称とせるずし）（嫌二意とも一つし）
（戸の何ゟる付句斗嫌）○喜よ（まづなどのより）○呼（ヨブ）子（コ）鳥（トリ）（女）
（二句さらよみをよ絵之）
（傘に古今伝受の物之只えれ）○よどもし（二径（ジニ）常（ジヤウ）住（ジウ）の何るはことせ）
（のそくあくわとしてまずし）
（乃字とせべしつ一ニへよりとそうくの）
（をし夜の字をあしれとろべて二之）
（た）大（ダイ）黒（コク）（弥祇之傘にも楽かなよのれへ）○髙（タカ）根（ネ）子（ゴ）家（ケ）
（一座よ一句の物よるべきを）

付る面を嫌傘と忌根○竹よちひろあらけてハ○高
嫌由二句去りし也　二句嫌之竹のそれハ二
根ニ山嶽ニ傘ニ嶽ニ去○高の字八つこかくして云○高き
根ハつる又ハ以上三　字ハ八の内也
小名所の名ハ竹○竹ニ糸竹五句嫌竹ゝ○玉（タマ）八ニ傘ニ
ニあるまいて三句也　竹ハ竹三句嫌　玉四ニ去り
云て又一○玉しねニ玉の字二句嫌○谷（タニ）呂三名所ニ二傘ニ呂三名所
以上五ニ　別ニ一字去り　又ニ谷の戸名所ハ二句ニ
戸ハ八つの内ニ谷の戸ニ戸ハ七句嫌傘ゝ谷の戸ハ面を嫌○竹ニ草
戸ハ五つの内ニ山家ニ居て又二句去り
弁説を○竹ニ管弦（クワゲン）二句嫌竹ゝ笹篠（サシノ）○竹ニ川竹二句ニ竹ニ
さしふ　三句去で　右義ち二句ニ
○瀧（タキ）呂三名所ニ二名所の上○瀧ニ山なん吹ば川ハ○竹の宮
のゝ裏をべし　山なりなりし
沐衣ニ名所く○竹とくゝ　五句去竹ゝ竹田の里○堂（ダウ）二
きくものニ於て　二句去しか　去

七句○塔（タウ）呂二名所ニ一○棚（タナ）去之て二○龍（タツ）一句ニ一辰の日の去と
嫌　石塔又ハ　斗去べし　のゝ内ニ又一句し
○七夕（タナバタ）聖らし月日ニ三句嫌月日まで○七夕ニ一七句嫌とも去
嫌ひてハ秋ニゝ限らん　打と之て去べし
七夕ゝ天の川二句嫌傘ニ○たな川つめハ不嫌○田ニ田舎
七夕ゝ天比川ニ之句嫌　何のまゝ
不嫌言なんと云字○田に（イナカ）田舎をかも○田ニ麻を嫌ひて下ハ極
一ドとちよめハ之　ニ不嫌　取ゝ行ハ麻追
してハ種々二句ニ案山子（カシ）（ヒダ）板ニ嫌ひ○玉に　木玉珠
てりニ句ニこゝそ追ふんるれハ々し　數七句嫌
傘ニ型ゝ木○玉の緒に（イノチ）命を嫌生の命など八二句嫌去の
玉ニ句嫌之　ものを云の命などハ行とくてそ之一
傘ニ云のを嫌ニ○ある（メカノヤマ）野山又ハ嫌ても大形に○田に
之て一命の行ニ文一　ある野の名所り
（ツクダ）佃田上江田比良何ニ句首代田笛たゝ何れも二句之○玉章（タマズサ）
今ちいぜるらの物も二句去るり

二句去○薫物（タキモノ）非季 物の字二句去○滝（タキ）に おち[illegible] 付[illegible]は付合也○佇（タヽ）

馬（ムマ）生類 非季也○田を作る 雑也 田を植てハ夏也○田に [illegible] 丁と云

句嫌 又も五○立田（タツ）に 立の字二句去 田ハ三句嫌○[illegible] 氷室（ヒムロ）而 [illegible]○立

田姫（ヒメ）名所何とも仙 又うよ八用捨在一○高砂（タカサゴ）の松 山名也 名所也○旅（タビ）の字

四こ傘ニ而 みても以上三之○旅の里ハ 面八句の内も嫌べし○薪（タキギ）に

焼物を嫌○薪に樵（キコリ）二句之○種蒔（タネマク）種物也 うを嫌○橘（タチバナ）一花がは[illegible]

○焼火（タクヒ）非季 火は皆焼火と云 詞二つ斗 打とえて也○たくれ

薪焼（タキ）七句○たくれ燎 二季 傘ニ火と云字ハ[illegible] と云詞を添て八[illegible]とのがくて

○黄昏（タソカレ）誰の字タ附て 是二句去り○たそかれ タぐれ不嫌 タぐれニも嫌也○民（タミ）の

[illegible] 庭れハ○明松（タイマツ）火二 に句嫌○襷（タスキ）手助不去 是二句嫌○袂（タモト）

衣ニ二句嫌 神て 手分がも不嫌○丹（タン）非季 二句嫌○焼香（タキカウ）火二句嫌 焼も同じ○たばこと云

詞の内 二句之○頼（タノム）是て二旦三傘 松の字五之 内在の句ニ二三句も去べし○[illegible]れ 松虫ろうぐ

玄詞不可嫌 傘ニ松 銭も松虫といふ事 嫌ろう○[illegible]ひておの 詞二句去べし

○短冊（タンザク）非季 雨を嫌○堪（タヘ）に 絶（タユ）る 等も 嫌しれ○たよれ 方を嫌 [illegible]

付句を嫌 ろうり○大文字 四季 可とて 文四之○大と大 打て嫌 大石大 天狗大木大丸

ホの 名こ○大しを[illegible]いふ文て 面とこまふ○大に 大和（ヤマト）付ても 嫌しのよし○大鼓一 [illegible]

○糠（ヌカ）雪二句と云て二句季を入て嫌ふべし ○うりぎ（うりうりと申し候の字ことなり この内なり）
○たけき（されども清（スム）て立事と云ては八の立事なる故とあるも）古今の序をもの立事に存しぬとあるは是なり
一箇の一二句をつきまとてみえし名ぐうち ○貯（タクハヌル）に二句嫌
こさ候の字なきは無差別なりしつれば

（れ）連歌は前句をこしらふ ○れん臺（ダイ）にてならぶれ 四句嫌 ○かつれ
どれ候れきまんなれなどと云 ○例（レイ）ならぬ 例にならぶ肱（ハウライ）のなしなまま
下の句にて二句之 あむるなれ前にならざる
くなしかるゝ 他に云ふも 遊（イレイ）例不例などと云へて二嫌
病院なく四句と嫌 傷（シャウ）中風などと云病の名は二句去るべし
○礼（レイ）一礼 跡 恐礼らひなどと云へて又一句之 ○暦（レキ）とよと給 只一つ

（そ）○空（ソラ）八し時分に出て天文に嫌し
雲井なども二句去るべし ○外面（ソトモ）

二季の字ある七句嫌 傘に外の字は字去く外面は ○岨（ソハ）二傘に出 山に二句去れ
季なき用之也 なるて山の字五句去り
こそ ○其曉（ソノアカツキ） 弥勒（ミロク）の出世の事 ○園（ソノ） 室を生（ソノフ）二句去
頃 又嘉く抜くなれ共 傘に園 只二つ
茶屋を祇園（サエンギヲン）に ○空言（ソラゴト） そらそらしき 袖（ソデ）
なぶの内又去し のなれ 文字を入て嫌ふべし ○袖（ソデ）の
○濡（ヌル）れ 淚の空わら 淚に二句 他に淚もぬれるも ○撚（マヨリ）に
躰なるは不嫌 傘に神の字字去なり
凡二句 ○わらじ川 なるに極めて二句人 御して秋之傘でなく
ぎしの 名なく名ぶしの名ふれて水とかる也
塚（ソウヅ）にも去 ○そらく あまりの袖の ○袖の雨 袖の名共に
又流水 二句なり 名なる
大方淚の字之他に仕立る者なるは淚に不嫌ま衰
なとはしに淚の字又依てこくしく衰なり 淚に二句
○尋（ツヒ）物（モノ）又 松竹草水などに此煙もの の ○そ 一ど
言ひの 煙なと鉄を嫌 ごろな

のあれハそこの○存（ゾンズル）の字　二字にあらし　存命　不存　存念何れも正月なり
これ二句
○月よミの神　名所なり　月よみの森　男なり　名の外ハ名所にいらし○月の友（トモ）
人倫に非ズ　但句体によるべし　傘に○月　雪一つゝ月とも
月の友人倫也　月を友人倫に非ズ○月　のやうなる句に去嫌
名所に一座に五ツもあるべし　前後一所に有てもよし　秋の名所
一ツ句月ハ四季の中に一つより　前月と名所　月雪にもよし
但ハ名の外　秋ならずとも　名所らし○月に　朔日二日二句之月
名所の雲にハ大かたなきなし　又日二句　姪日次の
日見ゆ月に○月のさハり　夜之月
わりゆき二句し○月にさかさき紛（ヤ）　野分月　句
かげ（クズ）葉に○繋舟（ツナギブネ）　旅と　非ズ○月夜に　白姪　春月　追三
も見ゆ姪　月よに　[illegible]
今月ハ○月の雪（ユキ）　雲おもて姪に友の組
五句去ル　入てハめり中に姪ハ○露（ツユ）霰　雪付合　かなの

もくつぎさるハ皆秋く　つゞきさもあれ○根こけりに恋あり　彼の友
一句の月に秋とむすびて秋く　などハ五句去ル
夜出るうちめて○月の月　秋と持月なり　月の出る夜月
などの月ハ二句去く　後ハおよそ浅い夜に月見ゆむすび
月何れも○露凍（ツユコフル）みくく傘に　夏冬
非ズ　秋くし　非ズ　別さく紛れハ三句去り○月に親をむすびて　二句見ゆ見ゆ
○躑躅（ツヽジ）一まく傘にあうて○月待（マツ）おぼむなどハ○月下
又みえざし　作紙し
夏冬の○露けさ（ノ）極めて　非姪○津（ウ）只二字にて二就波
のらく　津のつりしあり
津奥津などの○妻に妹うくて　傘にと斗みえし　なんバ
わすれ不姪　の京なく又みよ云ても首尾し　津の他大津就波津の外れ
字すみ之え玉津奥津ホを津ホまりかぞへと云流王わし見字
ことにる○鶴（ツル）只一回鶴（タヅ）と云て又一ところし　傘に云鶴（クワク）など
ころ見ゆし　あらうまえて又みえし　以上三ところつるをのびやし

それ雲鶴ハ紋も○雲鶴比林一樹ハ嫌ふ非（雲鶴の紋雑之）○土筆（ツクヽシ）に草
二ツの内なり
付句ハ嫌ふ大かた春の季に一句と云なり名之但春のへ入らざる句
なしつくしハ土の字筆の字ハ春も夏も嫌天文並ニ草木とも出すべし
○翅（ツバサ）に（羽翅何れも二句嫌）○常（ツネ）にして火（雑なり非火）
傘ニ常の字ハ五ツの内ニて翅二之○常嫁けてと云ても嫌
一句ハ二句きらひて去嫌し
○連（ツレ）縁に嫌（嫌ふ句嫌）○流に嫌り（四れをへて去嫌し嫌ふかたと八二句去之）
○流未（植物又ハ傘ニ並ぶてれを嫌木の字ニ三句く嫌れ字ニ二句く）○筑（ツク）波（バ）に
もろさがれしもの嫌○妻（ツマ）一書ニ一妻子ごとく嫌うて云て（まきれ也し）○辻（ツヂ）ゝ
よきく○妻にあうけらわろ（通をきらひ）○連て（只二去く一縁と云）て嫌く

○使（ツカイ）（人使ハ又表大名犬の使ゑもしをさもれハ之傘ニ使只二去を一又嫌ひ去法の内ニ一句くし）
○遣（ツヾキ）墨線（キザイ）かして三植ずべ相づ○椿（ツバキ）（雑花をむすびてかまくれ）
用傘ニ椿かたう○流ぐ（ツナグ）四
○流と秋表に一ツ只二去○つよる二ツまつくれて○綱（ツナ）の
字三ゝげるハ二の字之（名の字え女字をやる）○流つて（ツガヘ）
うしつるてやるとなる二句去る（ケントウシ）○嵩（ツヽ）
うつても二去し並ニ句使ハ二のなり
去げるてれ玄なり（嫌ふ）ての奈の
るれた万の見てすあろ用る

（ね）
子の日（子の年ハ又去し傘ニ植物ニ二句）○祢宜（ネギ）（非神祇之）
嫌ぶハ戌を嫌付句ハ二句嫌

ね

亻偏 ○念者（ネンジヤ）恋なり人偏也 ○宵渡（ヨル）の字 把 [illegible]（なども八句去）

宵渡の字を用ゐて夜とて云ゝし名残の折より七句隔 傘に云ゝ

しかるを是を云て一以上五句之宵渡に在る国 眠る花も七句隔 蝶を

の外のわけある事二宵ゝしての ○嵐（ネヅミ）[illegible] 戸嵐 [illegible]

わけし名のわけとりとてこれを [illegible]

りて四ゝ ○閨（子ヤ）に [illegible] 七句隔 ○眠（子ムル）に起（ヲキ）臥（フス）寝（ヨ）

たるし 傘に閨二ツなり 以下二句去

○寝（子ル）恋に一出二折に ○根（子）[illegible] の根の字 [illegible]

面影 ○音（子）に [illegible] 響（ヒビキ）○猫（子コ）一季なる [illegible] 二句去 ○禄

らひなり [illegible] 二句 ○願（子ガイ）の糸（イト）[illegible] 七夕 [illegible]

な

波（ナミ）の字 [illegible] 傘に ○難（ナニ）波に [illegible]

○藤波（フジナミ）[illegible] の波 [illegible] ○波の字 [illegible] ○渚（ナギサ）二流（ナガ）二傘に流

[illegible] ○苗代（ナハシロ）[illegible] ○涙（ナミダ）恋なり [illegible] ○波の花 [illegible]

[illegible] ○涙の露 [illegible] ○波 [illegible]

[illegible] 二句去 ○名古その関（セキ）[illegible] 山なり ○難（ナニ）波 [illegible]

傘に一季に二句去 ○名古その関（セキ）[illegible] ○難（ナニ）波の [illegible]

水辺に ○浪に [illegible] 二句去 ○波の [illegible] ○鳴（ナルカミ）神

二句去

沖（ヲキ）[illegible] 二句去 傘に [illegible] 二句 [illegible]

[illegible] 雷（ライ）電（デン）[illegible] の [illegible]

○ながれ 流人 [illegible] 二句去 傘に [illegible]

の [illegible] 流人の [illegible] 水辺 [illegible]

[illegible] の字 [illegible]

○涙（ナミダ）人の泣（二句去）○人の涙（ナミダ）（ある〳〵 二句去り）○涙に袖の月（二句去り）
○あはれ（むつかしき 二句去り）○嘆（ナゲキ）の本（モト）（二句こえ神祇）○嘆（ナゲキ）こ哀（え〳〵可嫌）
○慰（ナグサミ）（二斗 嫌し）○中天（ナカソラ）（一中の字 不二句去）○撫子（ナデシコ）（二ツの所なく嫌 名と云て又二り）
○なぐさみ草（植物に非ず 草の字に三句之）○名（ナ）の字 只二度て一句れし人の（名と云ても 釈物（ケイブツ）の字に）
木の名ハ義に嫌し ○名残（ナゴリ）（名の字 折の字なに 二句 傘に三之）○靡（ナビク）（意の類 傘に なびきおくて）
二したるり 二度べし ○なかうと（只一傘にあると一又田の字 のかるハまぐれみ嫌ふ）
あびくこぞるり七句去ふ ○眺（ナガメ）に（見る嫌 月ハ不嫌がこ又嫌）○なかぞらに（空の字 七句嫌ふ）
能なるこ又一度し ○中（ナカ）に（よる二句去 世の字同字去之）○中立（ナカタチ）（二中かる 去之て二句 傘 中意中立一仲）
板字の道こ不嫌

人一句 嫌分とほハ仲人 ○仲立ハ（御之中の字
中立の内に一句もくし 立行こ二句去）○存（ナカ）
命（イノチ）二長（永の字は二句之 傘になからくて述懐に成）○あると〳〵（ろうとく ろれとく）
夕涼の字 皆二句去 ○なかさらしに（雅の字去之傘に字字と出る くろどもり一句果とし足ず）
よみて又一句之し ○おもはれ（詠むふ 二句）○習の字（四句嫌し）
○形見に（あるらは 七句去）○おもふに（そらあひ 詠の字ハ不言よう）
○なきに（あかげ形見つれ幼つを念保付も付句に 不嫌 其の字なきなし 記ハ三句きらい嫌ふ）○なきに（ナキ）
あしなれぬむすひくゆく 云詞にハ三句去り
是ハ親類のひなきあり〳〵やうし 都の手ずからなく言の
継なき ○永（ナガ）日（一歳は一但日ハ書くもごく）○成（ナリ）也
みる〳〵 云えて又作の常々ぞ

わびのしらとあれ大雨嫌○あつに（あれ付句と　こまりし）○あふし
傘と成の字三句去ん
あれ下のみなをと云ふて○あらし過ぎらに形れ七句
付句ハ中をこまるふ（こまし嫌）
○形見巾　たゞしあらん所ハ雨とえて入つゝん傘にある
形中あらしあらんのこつの句を七句去ふへし
句の字さハ百歎よ○なりにけり　あしくつゞきたる組　ほこ傘こ字の字ある
こゞしかし
のことあり百韻にて○やどゆうべ○かゞみしる
句かけをえて二ツあり
のあり嫌○人の名人倫也　但刀（カタナ）の銘（メイ）ハ作者の名なれバ人倫をさくそ○あいそう
うり　そへし嫌る
と書るあり

ⓡ

蘭人（ララ　二ニ　去膝）なり○らんと云ん付句ある嫌（傘ハ二句嫌）○嵐（ラン）に

とらんちらんは羅ハ一字○らんらの句去二句まらぬ
まゆらんど付句嫌○らしと（何でしハかりしても二句去）
○らう　さんあらしおぐつぎき○らんに（あつくハ二句嫌）○乱（ラシ）也
蝋　あるミ字ハ七句こまるふ
蝋燭又煮の物松云句○らに　蘭（ラン）のあんらある
似ふあくハ形ふ付くて　めぐだら傍又あゞ
去らん也と○乱世（扎基ある又乱基）世の事なれ又一あづし
あらし二之○　まて基とは去べしとなれ基あるなれ
（天書之宗祇ハ記之去る）

ⓜ

昔（ムカシ　二去膝之ハ河しべ）○室（ムロ）の戸（かしおゝしハ奥捨て）
あゝをもさり嫌
ぐるゝ寺ハ七句嫌傘こ○室の八嶋（山路之記ハ氷辺ニ記て）
室の戸二之　室の字ハ四ツあり　傘こ二之　一八名所
云一説ハ人家の○村（ムラ）居（居所ニ二句之村雨）
竈を云もあり（杉村などハ不嫌）○むら雨（村のむら雨二句嫌傘）
村雨○胸（ムネ）に（ムニ二句　まぐら）○迎（ムカヒ）に（向ひ二句嫌）○むこ○（嫁之所ハなに　何くら）
二之

○武蔵野に（ムサシノ）かゝりてん意のあるなり只葉にむさし野ハ只ハ六ハなや二にて秋の句のつゆもこれも秋もこのなり
廿年の句より葎の茂く○むぐら（雑也秋をむすびてハ夏なり 傘に二茨二に条の茨木又の也）○梅一輪（梅一句の内一家あり一葉一句の梅一輪句内むうちよ四季あり）
梅の句ハ表に去之し傘に新式に一座に五句の内梅一つ合これ
ミう俳ハ○梅漬（ムメヅケ）梅干 梅雨に雑にあるし○群に（ムラカル）材の字に二句くへ傘にむつかしき
一類集ふるくあり○葎の宿（ムグラノヤド）植物之雑之傘にむかれ一
ある所にこの一句くし 八ゑむかし一以上二つて
○莚（ムシロ）二信の莚一帆莚一傘に莚二ッ式分 一名を莚 しろ一以上三つ之○筵 夏の法の莚 あれの莚すむ
しろ筵を帆むしろ○埋木（ムモレギ）二句くうゑ雑○馬（ムマ）二物二句に
ホハ只ふうけふ 雑のあふけ 物析に定
○むまに 秋 うのあふみなけ句七句経る秋にし 雑の物の秋
ぶれも経物春の物年七句経雑て山七句 雑の字

さふいうあれ行りるふうしるホ八之句○むしよ（おるるよ ちんろん）
雑池 ホ七句経るの秋きしに車舟（ムネ）
むしの秋○棟（ムナギ）十ナる物で○胸の門（キリ）雑く負るかし
○鼯（ムササビ）秋らし雑く傘にむささび一○難波に（ムナウツ）二句し○む
鼯 嗽雑ふくしありて之獣之
袖の蝶 秋く降物に二句く定葉。むかの声あるくて秋と
るるうれそへきる句伝を多くし 降物に八おとし
この経ら意○むかしに 家下の経 雑○二の句に七句経傘
ろうくし
あい二つの内之無植物雑し○息子（ムスコ）にむすめ色○聟（ムコ）
行ふくそ四りあく二之し
意を飛ぶむと○夢想（ムサウ）霊夢（レイム）雑とし○麦飯（ムギメシ）の雑らく
のハ意なうく 意て行くして
更飛ぶ○虫（ムシ）只二松虫 雑虫 みの虫 木の色に二句れにおを雑ふ
きりしきそうめりゑうハもし いとぶるべし云雑

うりなの虫又四ろくまなべし　夏の虫ならば八九月にも作るべし
傘にも虫夏の虫みの虫とはいふ秋也虫膝の虫なども秋なり
なかる虫などもとや夜虫の字を用ゐ句作つかふ
むしの字つけぬむしは八月の季なるべし　○武蔵野の翁引
八月なるべし翁の句あり
俳枚より翁を定めたり

㋒部に（わかる所）○部二（シキシマ 敷島のみち一名のみ此道一以上口つく [illegible]）
のその道をのぞむ　[illegible]　と嫌　○海ウミ二句去二流
并まき [illegible] の道 [illegible] と嫌　[illegible]
ごのことは　○薄ウスの字八つにも付 [illegible] の [illegible]
句と嫌　[illegible] 傘に [illegible] 五く　○鶉ウツラ 母
に [illegible] の [illegible] 一と [illegible]　○鶴カイ 附に [illegible] と嫌
[illegible] この嫌　○鶯ウグイス二
玉手 [illegible] と嫌傘に [illegible] 一物の [illegible] しゆう [illegible] 一也前に
[illegible] 俳は六此 [illegible] 黄鸝シワウリ金衣キンエ 公子 [illegible] 或八名 [illegible]

の [illegible] 二 [illegible] 一 百千鳥と [illegible] ○鶉ウツラ
[illegible] と嫌この説をかるの [illegible] 用ゆべし
と [illegible] 傘に鶉一笑ヨリ鶉 [illegible] ○うし [illegible]
[illegible] し
[illegible] の [illegible] 傘に [illegible] の [illegible]
[illegible] 水 [illegible] 鳥 [illegible] の [illegible]
[illegible] の
それは [illegible] 新式 [illegible] 内に [illegible]
[illegible] ○鶉ウヅラの床トコ [illegible]
の [illegible]
傘に [illegible] 八 [illegible]
中に [illegible]
[illegible] ○鶉衣ウヅラコロモ [illegible] 衣と [illegible] ○ [illegible]
[illegible] 二句去 ○ 植ウヱ 田タ 二句 [illegible]
衣は八五句去

○植の字（うゑるといふからにて二／植字の扱又同じ）○蔵中（言え但白／鮮とよぶし）○う

津るにゑらずよ二ゑ姪傘にゑらの字へゑらず字とゑらひあるくて二

浮るに落ずよこうろとしゑろうあると白ムしろうし

○牛（ウシ）一丑一○うしハの字（言え但白鮮とよる／だゑし）○白（ウラ）（言え／うら）

（ゑひス／ゑらへし）○うしやまん（うしの字中／人偏に形え）○うしわて（人偏うら／保言え）

○浮木（ウキキ）（植中に形え傘に浮木一又あかく／ゑどゑらえし一え之し比也え）○埋火（ウヅミビ）（取ゑえ／みゑゑり）

傘に浮の字（四ツゑうり）○斎に（ウタ）筐も包姪中ずに（うえしひりお）○筌（ウタイ）に（ゑゑゑかれ／なそゑらふ）

○謳（ウタ）ヨ（紡のゑゑ扇を姪／傍よりお）○吾に縦丹（ヌシサク）（とゑらしかる／を）○うす

道の（ゑゑのまゑ玄の内に落ゑのゑすゑ在の落の字に／南をさらふ也の字ゑらしゑなゑらうし）

○上（ウヘ）に（のゑならず二ゑく傘にうへみ字／まみかゑりて二ッ中えべし）○うね（言ゑの字／不二ゑく）

傘に後の字をまち之浮無ゑひ○憂（ウキ）に（ゆうきかゑりき／うれくつときの）

近勝ず形ゑ在の世ゑり

（ゑもし／一ゑく）○うぶや（在木に二ゑ之傘に生屋（ウブヤ）也書／ゆうさ命の字にも有ゑりゑよ）○う（ゑゑ／ゑく）

○塗勝（形え）○うしや満（浦の字山の字にゑ在の姪傘に／うしの字にゑ有ゑゑり）○腰（ウシロ）

（四中ゑぞし傘に在近勝と終ゑてここ／内一ハ道陀ぐらし在そえし）○うかゐ（うさ／ゑ姪）○裏（ウラ）

にあいけ（うら／ゑい姪）○うちゑびく（ゑゑ扇をもて此女の字二ゑゑうり／扱うし取ゑらずへ入ゑ前く）

○うらかうしまれ（うと／淋しき不姪）傘にゑゑ姪く○うしみれ（うと／み）

（ゑゑ後ひてハ古白姪／うしとまるゑ二ゑく）○上言（ウツ）に（白く）誠（マコト）二○腕（ウデ）に（手七ゑ姪／ゑゑて旨）

うくみ言（うつり）○うつしぬ（うつりかはる／云ふ事）○空穂（ウツボ）（矢をいるゝも石を／いれし物）

○賣（ウル）の字 四つ○羅（ウラ）、一僧などをさして（とをさした）○うし 枯（カレ）秋之（冬季）

むかしより題ついて詰よする衣裳袷して許ハせぬで管絃を原在

などの詞字を入るゝ極めと句とうし枯と一又秋冬の句季か

ありうたがしみ貞くし見えれ

これ雑ハ秋を入てすべし

㊀ 居守（イモリ）の事多し（蛇く許るも守の字を二句く今茶に有り／の血とがハ女のあざに附るといふ女は）

らきなるあれハ血えざらん○居（イル）の字（ゐるとえて八く傘に付／の字ハ二句迄きよ）

ゆるすなるしと云

しようえて○井（イ）（居二句二云みてえどのかよして也／謡く能くらざるハ云句の書のある也）

二句あり

㊀ 好也紀一 水冥をかしると云えて ○猪（イ）（居一能く傘に持／二句迄に名所の）

能名空人乃名に能ひよみの霙ど○能場（バ）えしめす（十月／末月）

までふれかゝらば今一言べし

にらバ度々天子出御なそ

らと京らんまろうれし

㊀ 法（ノリ）（仏法法の師法何なるも云之て四法義ハ式かく／傘にのり一なとしまらえ二又仏法のか法令法）

夜の法なとし○のとと（詞の方／二句嫌）○野（シ）に（京二句嫌なし／お京の乳志の）

以上之りく

京四句の京など八ハ嫌傘に○後七色（中山茂る椿ある二句之傘に／中山の志けるなるへし）

空の字京の空ハ皆空之

○理（ヤリ）にはなせ 八空記に記え ○空（ソラ）を（沖く祇之傘に組（サガ）く傷にあり／かもすもみえ外祇名所之句も）

出らすは一句にくわしえ ○野を鑓（ヤリ）ちえし之（鎗二句之）○理（ワケ）（三風雅に／三句迄）

のまれ秋く桜月

のようふの霙みる（ボウフラ）二句 傘にて 秋二十八月よ ○野分（京二／二迄）

吹大風く暴風とかくりくなり

傘ト師辺之内八○後（ノチ）の字前ヲ入テハ○軒（ノキ）の玉水（タマミヅ）
ゑんの絵ろくし字ニ入れざし○軒れ架し
かりあゐ四ノ傘ト斬二字のきバ○軒れはるゝし
辺ト能ス○軒（ノキ）以上ニ二ワリし○師れ四ツ○もろ巣（ノドカ）志づ
○のきれ菖蒲（アヤメ）ふくあく○師れ嫁
ゑ二句疑傘ト出京ニうら一文うらく○の風れ上の字
ろぐしかし云くて一以上四ろし○の風れ云ふくで
も二字○軒の雫（シヅク）かり柳ハ花入○呑（ノム）と云ふ四ツ之生戯の上ろそ
ろうり初水同くの
ハ句て入て○能（ノウ）一芸（ゲイ）能と云ふ入てハ人多し餘の眼目
ス多し○能うれ人偏ト能ス二字ハ人偏ろし
○明（ノアツビ）疑ろてて二句組を○阿も也通りや店のそ皆
もヤづと云へ面ろ云や也ト不嫁積（セキ）ト云字三一て此わや此つ経
不ちきのセりど不とれ面とろすし世

㊀老（ヲイ）二字ニ就ニ二字ニ一人の老二の字ハ字を嫁傘ト乾人字
就ホニ絡ろ之乾ハ歯膝の何く乾め句字トスト如人
ハかりやぬうすく組乾の当乾ホ不乾門やきの酒なしいハろうて
歯膝のむろし式乾の字ハ俳の老人おきろ句ニ勝ろくへ上うし只家
乾をおおと○老れ白髪（シラガ）以の字○乾に着（鶴）付句ハ家
怒む色し　ろて七句嫁　嫁ろ文う
ユハ雨按ろゑでし傘ト老ろむうしあ○老に乃き右貨を
ろし八歯膝ニ句つゞうぬゆくろし　白う乾を
かでくの皮談の字談の歌でそかげくみくそ云ろの歌ニ句嫁
傘ト乾ト談の皮字談の歌でそかげくおハ字乾の弥ほ
うれハ七白嫁し言ろろぐの句律○老に乃ひニ句嫁
あろくハこまらぬ嫁ろしそ　ちぎうろうち白方
○沖（ヲキ）只二名字ト二傘ト沖ニ○奥山（ヲクヤマ）一山のおく一傘ト奥の字
おくこまれハ代の外くし名字ト一以上ゑろし四川ろし云ちの
心の奥も四の外ろう○尾上（ヲノヘ）尾の字上の字ふを二句く
傘ト尾上ハ七白嫁傘ト

屋上二内一八句○嫗（ヲウナ）の字八ツ之○翁（ヲキナ）（翁の翁嫌ふべし　又翁ハ何も述懐に嫌）

あるべし○親（ヲヤ）（述懐に用ス　子斗も同前）㊄親子（二句嫌　親子トまぎるゝ人倫之）○男（ヲトコ）（去りて四句去べし）

傘に男之内一八句之と去りまでもまぎらはしきとまでをもた

りれそのをれをとこと云て之ゟ男と旅七句去し嫌

○をし鴨（カモ）に限りきと云詞を結ひて○鬼（ヲニ）（一二さきん一　鬼と鬼ハ）

ハあるべし

り嫌ふべし打越を嫌ふやうのけやけき

物八似せ物ゆゑにも打越て嫌ふべし○落葉（ヲチバ）（二句去　下の落）

とし打越嫌落葉で冬と松の落葉ハ雑に嫌ふ○親（ヲヤ）（も二句去で）

柳下ちる落葉ハ秋ちるべし○親一句嫌とや一

生類ハ嫌ふべし○おさなし人倫也○大井川に

又嫌ふべし○おさなし（たしかに）

あやうき○尾花（ヲバナ）（尾の字ハ花の字より二句之）

嫌しぬ（傘に尾花の字ハ三句嫌）○おつくて㊄

蛙ハ二句之傘に

之嫌之三句嫌之○荻（ヲギ）一季と云て下ニ三ツも去し傘に

内で一句に在て秋とし荻ハ一代の物と一句嫌の隣荻の

りく冬の荻ハ春之荻たげハ夜之荻れ

秋二句嫌但荻の下のく○思ひ中（植物之秋之傘にて）

ろどこハ秋の嫌（花り秋の物之一季）

に二句○おのひよ次二句嫌（おのひの嫌傘ハ二句之是ひやうに）（おのひの字やうよ字にて二句之傘に是ひやうの）

の物之○おぼゆるに（おぼろつきハ二句嫌是より見ゆるときハ）

詞一季て三○おぼろげ（傘にて見るとし是ひくに七句去く）

○面影（ヲモカゲ）只一字に一面の字影の字にも二句（又陰の字も二句之傘に面影之）○起（ヲキル）（起之ね　ゴ打越嫌て）

（うき花）ぬる夜一切の○おぼろげ（おぼろ月と）○思（ヲモ）ひ

嫌き起嫌て（ひまぐハ去）

みをへみをしておぼえ傘にて○清しく（おと嫌とく）

いらく夜もあるにて云の嫌（ごしく此す）

七句去あん四みや○清に墓（ゴ）陵二句○大（ヨホ）の字此ハ大句大
ごけんぐし　まじふ　あろうじの
去きゟつの大の字ハ大宗大津なとハ二句嫌○大（ヨミ）しごいをとまじふ
太夫大名も付ぜんかうし　ごらく　四之
○猿（サル）須弥山も一句も用○夜神（ヨガミ）詩伝月日の類ハ去
されハ二句去出（デ）行（イ）　二句去ルハ　かへみ付嫌
ハ文ハ去し　おもむく翔雨礼拝待（ヨ）で○世帯の秋（イリ）ハ
りなれも面と嫌ぐし
是ハ傘にて雪ふみ全燕物○朧（ヨボロ）月（ツキヨ）夜ニ　霞（カスミ）二句之○おも
の見物おをとくてふるぐし
ひしにおとうて上の五ツレ下の五文字又中に
とこそ　すぐし下の句ハやぬ事ぐし○大（ヨミ）神（ヒノ）
祭（マツリ）ふ　四月上の申下比日
ふ物の心ゟく

（く）

國（クニ）の字　四之ゟし句と嫌ふ雑ハみにておとこそ
離別　和別ハ七句嫌○草（クサ）の庵（イホ）

此ゟの不…何れも延縁ゟ隔ス極○草花ゟ萩（ハギ）ゟ薄（ススキ）ゟ嫌ゟる
此ゟ隔ス草の戸ハおくとこゟぬ　まだし何ゟ比風しまじ
傘にて草花一花の字嫌去一○雲の上人　公卿の類ハ陸奥也ニ五残
草の名枕と云くてこるゝ　と絶傘にて雲の名くら人公
人倫○雲に　雲（クモル）二句嫌去○竹（タケ）木（キ）　雑の句ハ但句
ゟう　のもの二句去く　雑にてぐし○くさ
く　草の上にて嫌○出（クツ）有れハ隔ス傘にて出二文字の出ゟぐ
雑（クサ）の字ゟう　ハおうをつくくみえぐし
○黒（クロ）の字四之○草（クサ）枕（マクラ）雑物ハ隔ス○草の花の上の字を西
ハ二句　雑物ゟう
よ二句○草（クサ）葉（ハ）蓮（レロ）雑物ゟう　物くれぬ　は嫌
ゟう　見ゟく○くさき　ゟ…くきよし…
二句又夕○暮（クレ）をもて　秋ゟうれる傘に○くさ…
ハ不嫌　暮　秋をもる
○草の原（ハラ）　野ゟの不嫌草と千種（チグサ）二句嫌○草村（ムラ）　雑物ニ二句ん
草ゟ…ゟれ少し不嫌　草のも村ゟ

二句○花飛（クワヒ）雑之（花の字ハ三句嫌ふべし して八四字にて結ぶ嫌）○掛葉（カケバ）
なり（みえ花を結ひ てい於くへし）○海月（クラゲ）月（夏も不嫌 鏡の事なり）○擽（クヽ）二りげ根（ちよいちよ）
内ニ文字つかへし みえて○水鶏（クイナ）（夏也 敬之而迎之傘に 句のつけそえて二ツなるべし）○熊（クマ）一児
げハ此かゝり
熊手ハ冬也 熊手ハ○串柿（クシガキ）ニへぬく（秋也）○口紅（クチベニ）鮑（アワビ）生類也 夏の季○梔（クチナシ）
此かゝり
水鶏（クイナ）冬也○車（クルマ）（呉三流の車一名車一身車ハ雨ほうきくしらく 車を人て出るとも四も車也び車戸車也）
おハうくれ○暮春（クレハル）夕とも暮ハ秋のつくりて、 二句夕ともニ句ろり○暮秋（クレアキ）の
なるべし
暮れ夕ほり二句也○くちなし下の字二句也○食（クウ）の字（句之又生類の食物 そえて二行り）
○口に吸（スフ）ふかで二句也口人の上に云て口之名口切 初花戸口名は
の 口ハしゆらく口もひゃうびゃうわるを好むものハ茶どもむさといてハ

ひびきて○蔵（クラ）一十蔵一文庫又石○曇（クモル）の字（月の字に付けて後の雲とも名をつける）
し 一句ベレ雑物也
ぶどうを 一語（ギヨゲイ）一流（雑）の位なり○官位（クワンイ）人倫也雑之但し句の縁にも
されべし○位（クライ）まことにるべし 改めしこゝ
ひそかに○沓（クツ）の 冬二句也木履（ボクリ）ハ○轡（クツワ）の音 生類にて不嫌
人倫也 わしそうらふ 其の縁者
の波は水辺に○蜘蛛（クモ）雑之但し生類なる人 傘に嫌一文字嫌
ありくぢりかし ○くろかハ雑之 穴より出る虫ハ○久米の仙人（クメノセンニン）通とう
意の 夏也 春に入ハ秋なり
○暮春（クレハル）に うきなりしかるも○曲山（クセヤマ）一家に一
なるべし ○国の海（クニノウミ）るとでし二句也 句のとものく
名所之 くにハ伊勢北海
三四のものなり るよ

㋳
○社（ヤシロ）二社に宮殿（ミヤウヂ）姓傘にまつることハ流（ハヤリ）奴と云○山ぶきくく
ともれハ社に付て不苦

暁（アカツキ）の雲のうちにおゐて嫌ふ也 ○山姥（ウバ） 山路離人倫と

傘にて山のまへと見るべし [illegible]

○款冬（ヤマブキ） 山吹色の衣又なくし 山の字ある句に傘にて款冬（クワントウ）一

[illegible]山吹色の衣一句あるとしても[illegible]又一句之し

蕗（フキ）に款冬と付てもよし [illegible]

ハ[illegible]の何や[illegible]隔すとも[illegible]隔つべ

きく ○山の池 植物に二句 [illegible]隔 ○山は [illegible] 二句 隔

○山里は 柴（シバ）の戸 柴の庵 同季より ○山の端 [illegible] ○山もとに

[illegible] ○山陰（カゲ）は 下[illegible]あめが下[illegible]山陰に

と句隔 山もして夕かげハ影（カゲ）の字たれ共二句隔之[illegible]

陰一山かくれ陰など[illegible]又一つ傘にて又山の[illegible]と一句べし以上

之に山の峯[illegible]山の[illegible]を隔 傘に山の

[illegible] ○山柴（シバ）[illegible]山[illegible] ○八重（ヤヘ）八重[illegible]

[illegible]隔

八重の家 八重の[illegible] [illegible]に義[illegible] 傘四

八重と言詞一夜に二之重の字に[illegible]詞又[illegible]

[illegible]夕ハ二句去之 重の字に ○柳（ヤナギ） 青柳 柳[illegible] 柳桜 柳にし

[illegible]柳[illegible]三

夜に一体上二句二つれ[illegible]柳桜柳[illegible] 霞に

[illegible]季と[illegible]べし [illegible]

○柳に [illegible] ○藪（ヤブ） [illegible] ○[illegible]藪 [illegible]付

○宿（ヤド） 二種に一[illegible]の

[illegible]やどり[illegible]の[illegible]隔之し

○屋形（ヤカタ） 一やさ[illegible] ○屋（ヤ）に[illegible]句隔 ○屋の字[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二ノ句去[illegible] ○矢ヤ（[illegible]の矢みな[illegible]し）○矢に弓（[illegible]嫌 年の矢）

○流鏑馬ヤブサメ（[illegible]神事二[illegible]三句去）○簷ヤネ（[illegible]七句嫌）○鑓ヤリにて（[illegible]）

[illegible]の内文一[illegible] ○疑ウタガイのや（[illegible]）○横山ヨコヤマ

[illegible] ○うとひのや[illegible] ○山路ヤマヂ（旅に非ズ）

○八のまゝ（[illegible]又[illegible]の[illegible]）

㊟ ○松に[illegible]（[illegible]）○松の門カド（[illegible]）○松風（二[illegible]）

又三 ○末風の[illegible]（[illegible]二句去）○松の煙（[illegible]）

[illegible]二句去 ○松の声（松の[illegible]三句嫌）○松に[illegible]（[illegible]）

[illegible] ○松のみどり（松の[illegible]）

○まゝの字（[illegible]松の[illegible]）○真葛マクズ（又ハ[illegible]）○枕マクラに（[illegible]）

[illegible]

○鞠マリ（一[illegible]）○町マチ（[illegible]）○秣マクサ（[illegible]七句[illegible]）

○[illegible]（[illegible]）○籬マガキ（[illegible]非）○侍の字（八く[illegible]）

二ノ句[illegible] ○[illegible]（一[illegible]）○まつの[illegible]（[illegible]七句[illegible]）

○[illegible]と（[illegible]七句嫌）○窓マド（二[illegible]）

窓にも（二句去）

眉の霜（マユ　しも）（[illegible]非人倫にも非人倫[illegible]眉の字あるべし[illegible]）○孫（マゴ）

○ましら詞（コトバ）（詞ニハ三句去[illegible]の月にハ[illegible]）○（[illegible]面影也）眼（マナコ）（月面と座をさりけり[illegible]七句去眉ニ月まで二句去[illegible]他の字二句去）

○舞（マイ）（[illegible]八句[illegible]）一まふ一こさて[illegible]二句　○舞る（マイ）（二句まで[illegible]）

○（[illegible]）茶（マツ）の字（[illegible]）○まへに（[illegible]二句去[illegible]）

（[illegible]二句去[illegible]）○祭（マツリ）一

（[illegible]）一[illegible]三（[illegible]二折と去）○松の葉（[illegible]）

（け）

○今日（二句去[illegible]二句去[illegible]）○けふに[illegible]（[illegible]）

○下戸（[illegible]）の詞此間[illegible]二句去[illegible]○けふのこと（[illegible]）

（[illegible]）○煙（ケムリ）に（[illegible]二句去[illegible]）

（[illegible]）○[illegible]（[illegible]二句去）○けふに（[illegible]）

○下（ゲ）に（[illegible]二句去）○けふ（[illegible]）○検校（ケンギヤウ）（[illegible]）○煙（ケムリ）

（[illegible]）

○傾城（ケイセイ）（[illegible]）○けりふ（[illegible]）化粧（ケシヤウ）（[illegible]）

衣の ○袈裟（ケサ）衣なれど冬季なり ○稽古（ケイコ）一句に二 白也 ○獣狩（ケダモノカリ）

組く衣は仏門の法衣百衣の題に ○けごろも 冬なり 二句なし ○[illegible]

[illegible]

○古寺（フルデラ）の庭（ニハ）[illegible] 古寺の[illegible] ○古里（フルサト）

其二[illegible] ○古郷（フルサト）に 比二句[illegible]

二[illegible]

[illegible]

○[illegible]に

二[illegible] ○[illegible]衾（フスマ）[illegible]

[illegible]

[illegible]

○衾（フスマ）[illegible] ○[illegible]

○船子（フナコ）五句去るべし 海路を ○川舟 舟 繋（ツナギ）舟[illegible]舟 [illegible]舟[illegible]

○舟 [illegible] 船路なく ○船岳山（フナヲカヤマ）[illegible]舟山[illegible]

○舟よ 筏（イカダ）経舟の[illegible]

舟の[illegible] 天の川[illegible]舟の[illegible]

[illegible] 右ハ[illegible]舟岳山[illegible]

白え天の川[illegible] ○[illegible]（フセト）二[illegible]七句[illegible]

五句去るべし [illegible]

○藤（フジ）[illegible] ○牡丹 [illegible] ○生（フ）

浅茅生（アサヂフ）[illegible]

[illegible]二句

と始候の所ハ○ふきわけの芦（アシ）節（フシ）鶴るくめ多（辺すま秋）
極而ヲ近まて二句始
うくと○梅のわきれ（又山二句始）○ふづけ、（文月）（二句始第二）○ふでき
始 風に而始やふ秘ハ前々春ハ七台始降の吹のふたち吹ちる宿
吹とまるえ傘に降の字ハ西を始く
○更（フケル）と升ぬし 夜ふとも面を始取の文字を消ゑ
ハ此からに始めて傘に字のかな取て書て二まて
秋の文人乃部にも入れ二 取ふて足袋（タタビ）○歟（フ）一句立て一結に
たる登し取るまで書三句始○卦（フス）り不始
一句まで一行れもおと始蛇玉ふるまでハ立ましても不着語ハ立の
一句ハ二ふり一程てし傘に立て一結る一みもふに一あふ字にの明めり
結よても立すそものゆりもん○文に文車（フグルマ）文立あると
あるようそし文一行ろふし 始傘にれを始
○筆（フデ）一もどろ事一筆追みなるべし傘に○筆に了字結結
筆一ひろ（たがう）大あれ文一 書物ろる

二句○ふりつみ（振の字に二句始）○笛（フエ）一つのふへ一ふてふく
○筆（フデ）ぬ跡その他西を始傘白字の始一筆始一気（ひつき）條（でう）縁（えん）一ぶ中
なふはにかうりてこ二句る一
○鞁（フチ）ある音に（鞁ふとて二）○風呂に風二句始風（ふう）流（りう）
名ふとて二
風呂一めりやの○振舞（フルマイ）ぬるきまた立食（ぐい）○ふく芦ふきとしけく
めりー
は中で位ふ（いふめてハ褒 一ふし）○藤（フヂ）なみ（藤花の句ハ）蘆（あし）ハ節傘白結
まてに取付ふる黒き所ふに二句○武士（ブシ）人倫に武まも武辺
架かつ始雉にもハ食（き）え○梟（フクロウ）新しく（新しくしみ）武を尊ハ始と始
（巻ハ始て木にて見る）
○蒲団（フトン）冬にあらし○藤波（フヂナミ）氷辺に絡ス○降（フル）の字ハ吹と字
ちく笛とふて風跡ふ始但吹
なく字風の字に二句なり

㊁心識（うちとけし此ち二句に）○権現（本地に）○心の月

（云夜し秋ふくも能く聞へ三句月に八句去）○心の杉（ひくに好色の事とも文すもる心とも云ふ類の事也）

（あかね梓弓）○心の花（西行之人也二句に）○心の松（こゝろの心に用ゆる）

○心の駒（心の種ともに生類に能く伴ふ心乃うつろひやすき事を云）○心の友（紙人同じ句）

（折ころ）○心の闇（やみ 親の子に能く伴ふ子を思ふ心を云）○子（一鳥獣の子二ちいに後の毛又二もし）

○子に（生類の子七句去竹の子六三句去伴曰子に竹のこゝろにて八句去と嫌ふ一字子ホ六句も去）

○子を思ふ（ば子思ふ子ある所に六句）○子に（むすこ子に乳母句と嫌ふ）○詞（コトバ）の道（八雲）

（仏の物の道に面と嫌ふ）○古筆（コヒツ）（屛風の古の字面八句の内にと嫌ふ）○木の葉衣

（こ初雪也心に二句去）○木の葉此句（このは此外このめはおしき）○この

葉ちるに（名も所き ほとゝぎす）○木の葉に（木の字また二句去）

○声（コヘ）に（たちうしとは面と嫌ふ）○梢（コズヘ）（にしへ木の字木の字また二句去）

○木末の秋（木の枝乃うへに二句しこまかく枝に去嫌）○衣（コロモ）（云句去二句の衣の名）

（草の衣いろく）○九重（ココノヘ）都（ミヤコ）（の事 都と嫌ふ伴曰九重ごとく）

（何とす）名所に能く伴ふ去句之類と嫌ふ九重の事とて衣の内に坐す

ちに一きさ九重（ナ）（職ヤク）きこえかの名所九ヶ〜一意アし

九文字八々内二ここしのめうてしきの字ある

急とし（に七句去）がさるゝは三句に急に押し

（八）おもてにしてしかおもしろう（八）面とさらふ

それをしむ 時に三句去あり

○苔の袂（コケ　タモト）（うく物に非ス）○苔の衣（コロモ）（ハ時雨にうく物に非ス）

○苔筵（ムシロ）（うく物に非ス衣に非ス／也しかしてハ衣にあらし）○こけの戸

（苔の庭ハうく物也／五節所に）○苔猿（サル）（うく物に非ス）○この葉すく

（本条天和／うく物に三句去）○木枯（コガラシ）（此一ハうく物に非ス こがらしハ／冬也されども木の葉散といふてハ）

（三句去 秋の月／なとハ二句嫌）○こがらしに（葉のちる／ちと嫌）○言（コト）

の葉にて言葉（二句去／まらふ）○ことの葉のちらし（うく物也／嫌ふ）

○詞（コトバ）（二ことの葉又いくへも／とのゑの道ハ此外に）○夜酢（ヅ）（冬也）○胡（コ）

慶に（小の字／ハ嫌）○こし地にて（こゆるとなどいふ詞二句去あつま／こし地なとハ二句去）

○氷（コホリ）（二字ならひ一氷柱ハならひ一氷二の氷ハならひ／ひ日お傘と氷五との内一ハ定申して氷ハ冬也）

氷室（ヒムロ）（ハ／五月之）○氷に（なごりの氷ハ面をとりの／月涼とせず研桶）○去年（コゾ）（二句／ことし）

二三年（コブ）にハ不嫌 ○懇種（コヒクサ）（恋草と称し秋なり去げる此ごとく／されハ恋と二句嫌何も季を離之）

（かいまも又不嫌／月の）○頃の字（ころの字ハ二句去／同じ之て八此ハ年内日本二句嫌）○比抄

（三去ならん）○時（ハ此ゆぎれか二句去）○骨数（コツ）（又此度とも）○後家（ゴケ）

○濃室（コウミツ）（又人倫也）○乞食（コジキ）（人倫也）○湖（コ）（に葉の字嫌ふ）

（気をつ／あるべけれ）（又此字二句去／山の字に嫌ふ）

○ことの葉に（葉の字二句去）○諺（コトワザ）（に朝あまのさハぎ二）

句去 ○言（コトバ）（に付る句も嫌）○こてがしまの（此うちの言葉／二句去）

（附句中し/と嫌）○昆布（コンブ）（とりかぢにいふ/春近きに嫌ふ）○こゞり鮒（冬/迎）

（と能く張て/七句嫌）○こゝろに（この句を/嫌）○こゝ炎に（冬の字を/嫌）

（祝言し/書し）○菜（撰句/嫌）○巨燵（コタツ）に（火七句嫌/炬燵を嫌ふ）○小鷹（コタカ）

粽（チマキ）（秋く撫し/の字さけた句をさけるの）（五月の節句ハ近）○戀（コイ）の口子（四季多く/さし付る）

（さくらなら/うらまゝし）○あゝに（春秋/嫌）○戀の山（羽州の名/所なり）

（是をのみ用ひさせまず/恋のつらきことなし）○胡蝶（コテウ）（春なり/春嫌）○氷の

（恋/流し）○恋の句（春秋の手向よ恋の句/秋の句なれ又平句の矢）

（秋の句附へ恋す恩しき恋の句を/さくら也とこそしるまへし）○こよて嫌一座（ん）

（年のうちに/こゝろべし）

（江）縁（エン）（二句之/去嫌）○江（三名所三任の江よ/三島江の類之）○箙（エビラ）（矢を入也/さしの）○夷（エビス）

縁に（縁辺えん継えんを嫌ふ/縁の字は内ニ年去）（傘二嫌ふ類ハ/夷ニ一時ニ小狄大南蛮西戒此内ニ三句去ル）（さ嫌/南蛮ハ）

（人倫之/雲のかゝり）（句人倫/雲のかゝる）（ゑびすとよめば/ゑびすとよむ）

（て）天子（テンシ）（のかゝりし）（輦（ライ）之人倫）○天竺（テンヂク）（多く飛ぶ/天竺不嫌）○天狗（テング）

（祇/多く張て七句嫌）（弥飛ぶ）○天の戸子（四季天下も/雨学の嫌ふ）○天に（三句/三ヶ嫌）

（句嫌/ちる嫌）（天象（テンザウ）ハ/つゝ）○天に（三句/三ヶ嫌）（天台山ホ）○天の川（水辺/秋嫌）

○手（テ）の字（八之句と嫌/傘ニ）（はかなし）○手に（七句嫌/にまちまち）（あちら七句嫌傘/さる）

同字なれとも文字のかはれは嫌はて異同字なりとし ○手に縫
うハ手にするとあれハ手五つの内こし
嫌（七句）○手に指に（切るなとは是もてた）嫌但句数によるとし ○手（てのまた）二句之 ○手
かけ（俳言也）とも云ひ ○寺の方丈に嫌法と ○てんと云絶に
云ふとも云二句嫌 傘てくふと云同之（[illegible]）
例一八句去とくけし一て[illegible]ハふの（[illegible]）○手まり
同事にし
嫌去二嫌ス　て毒り下の句に八二斗反くし傘
手句あけれし一すれハ俳とハ二反二一去今し下の句之（にやの句のて毒り連ね[illegible]）
おしめ同潮に毒りしまく陽りのこともある百
なり　神の字 四之 ○鉄砲（テツホウ）にて嫌 次六 ○幸 旧三る（[illegible]）
四なし傘ある号一角に一又ハ乳をとも[illegible]
は上三之下嫌之了習字の等ハ会五 求之と之る云の四之嫌ス

○寺に 金剛峯（コンガウブ）ぜ南禅寺本願寺是但三井寺なりを寺な（どくまたに去てハ引と嫌去馬ハ去て支ニてを）
嫌寺て宝堂坊本七句之 ○てうその字 引合を嫌てくハ記
何色も去ルとかし[illegible]をえんとて出て入る
と去句に上の句にて毒り嫌之上の句のてあ系の字を付る
のこしの句切きは嫌ありてゝ下知をれ ○字漏り
こころみの事
等二句嫌の

㋐ 天（てん）四ッ之ありし去て又四之あめあめあまの心也を嫌傘
天の字連を許す四去れハ俳よりみんと是ありて
かし一去りハ上五之（[illegible]）
あめあま之二句嫌 ○天河に身を浮ひてハ水辺ト
（[illegible]）○天の川の[illegible]を舟で浮ひても水辺之嫌え
（[illegible]）
○間（カ）かいもとふ（[illegible]）○あがりま二あつま 東西之嫌 ○[illegible]

此海　後に嵐山又発句　あつま挫し汴河しめつまやに東

○霰走（アラレハシリ）　是も前に二句去に数と嫌○嵐山（アラシヤマ）

是に従ひてハ月は五句去女嵐辞形○在夜（アリアカ）山又ハ海○樫（カシ）に数の字二句去○朝月（アサツキ）月

月詩三二句去　のをと三句く

時に○朝の月　一句に数の月　又一句去し○暁（アカツキ）一句去一座一暁ハ暁三句去の内に暁八く

みちのくの○暁　はかりあけ○浅路（アサチ）に　近二句○幾夕に

出世に　暁に今ハ一句去之

其の字三句去し○あさきこ数の字又一七句く

傘三二句去　之に絹二句去之　○穐（アキ）二句去之

○暮明　一代の季を一座二句の字二句　時の字　○有明に有明に月

之句之傘三季と之てこつりくし

夜の月　暮明の暮の詩かとしれもあふ　暮明のかしてハ是ら

明す流あり暮てそれの字の月　・それでしと嫌之

秋ハ暁望去

二句去し

○明暮（くれ）　あけくれの如くは是くかけ暮のつけあけぐれくらし　しぶれかみ

とくのしをとこてハ

空を時暗に之○明暮　与の字三句　明の字二句　暮の字三句去之○曙（アケボノ）一座一句　是に二句去之

りのとしも絹之句ハ一座と絹一座二升○明ぼのに　ゆかし　と

為てしりのくふし又も定めき之

絹夕は

に之（アヅマヂ）東路にあつまやれ　一座傘とあつまこき絹

之之東路あつかうけのれ之ハてと之

○東路（アヅマヂ）

○まつよれにみどり○青き字同く　東の字同く○東丹吉（アナニヨシ）

　二句去

と云絹を之二句去之○赤に　紅葉丹朱○紅のうだれ　紅葉を

ときは○秋風　一吹と風と洛ひて又二傘三○

のふろう　秋の気二句去し○跡（アト）の字　之句去嫌に云ひて　くハ○世（アニ）

　　　　　　跡のんくと八と字して

　　　　　　秋の葉　之乃き之も　四をとつ

一あし火一 鴨一 芦ノや一何ト折ノを嫌 傘ニ芦ノの文字
四之内一ハあるしまうノえてこそへし ハ芦の花ノ字ハ四のすく
芦ノまう ○芦の穂綿（ホワタ） 秋 ○芦ノや（句ノ火大木ニ可 四植物と嫌ふ）
迎之 ○芦田鶴 植物水辺ニ非嫌之れの ○芦鴨（カモ）（二つ可迎）
（あらく云ハ植物水辺也）
絶え ○菖蒲（アヤメ） 五月迎之 折の ○かきつの花（夏植物）
（何やかくれハ水辺ニ可）
○温（アタヽカ）に 乃とつきむきを ○暑（アツキ）に 涼しき ○雨 四之
一折句一折ニ二句 二句嫌 勝也 ○雨（二句嫌）
一句四の内ハ折を隔 傘ニ一木ニ一五月雨あまり一句みの
句の年ニ白雨ハ 大ナカツク 雨二ツの句文 なへし 折りこれ
句の中の其事云 ○雨に（其句村雨あまこ嫌之何月雨ニ）
○句の内に 細かとの 雨花し ○嵐（アラシ） 二ツの風を嫌し傘ニ
覚ニ云嵐山ハ木の

句これハこの其く嵐雨を嫌 ○浅茅（アサヂフ） 生 秋ニ二句くべし
兄弟の ハ内くハ兄ニ二句也 傘ニ芦ノ里ハ秋ハ秋を隔て
傘ニ萱（カヤ）の字 ○秋の田 稲庭を嫌ひ其を三句隔て
二句マテ四也 ○秋の 嵐を追ふへく何とハ二句也 ○秋
むき 中にも秋ハ肌寒く秋の ○秋の風
せきもの 云をバ二斗ーも何すへし ○一霰（アラレ）何か
もまんかる句れうなふハ ○挽（アツブ） 二折ひ二折山一
ききあつハ秋を隔て べし うへてるまとし
何とハ嫌 風ニ嫌 秋ハ秋を嫌 其ハ也 雨二句 傘ニ雲路山一
其間ニし一雲路秋 原一句ト嫌の雲路文月 嫌秋を嫌けれ
地の句ツき雲路金嫌の ○雲路のきゆるまで ○何もび口（アジロ） 着
何もとし とのの類なし
名前ハ秋句の嫌ニ ○商人（アキナイ） 一句嫌 ○麻衣 之ヲ句 ○網代
あるへし
二句まで雪を嫌代ニハ二句く ○網（アミ） 水辺く 嵐もある 植ニ仕えて よくば
何トカラ秋カラし （句辺ニ絶えあるよりむしんハ）

（こゝ白姫之）○細代の庭（みなゝ二句之）○ひのらし人偏も姆（人偏とかく人傘にハ）

人偏（まくり）○主（アルジ）に（とのまゝ二句嫌）○あこいろくみ云（えて四之）○赤豆腐（アツキモチ）

（發句解之麻之乳之）○焙（アブリ）ること魚（る遍え飛ス嫌こ哥るゝ方向へし）○あらむ

（おるゝ内蔵大意の中之）○足れ（腸（スゞ）子ス みくし）○足に足儀（フム二句さ）（二句さし）

（二句まらうし）○人のほしれ（ある歌の足し用ひ嫌／足なるの足ハ七句嫌）

㋚

○里神楽（みな冬の句なれ禁中の神をいふ）○坂（只二句さかり二傘にて以上三句さらし）

○沢（只二句去二／傘に以上三之）○在郷（ザイガウ）（みな冬季）○棧敷（サジキ）（みな夏季冬ニス）

○さゞれ石（小の字二句嫌／小石のこと也）○散銭（サン）（二句嫌神紙と賽（サン）銭トモ書ク）

○催馬楽（サイバラ）（うたのこと也神楽に離れ）○寒（サムサ）（冬也一季にて一句去に一傘にて二去）

（ゑんと義一宗し云之／用ゆる日本ハるゞうし）○さゆる（冬なりとへて三傘て身すとてえらし）

○鬼どもに（さゆる言語）○佐保姫（サホヒメ）（神紙と何のひさほ姫春／姫筒姫姫の事かうを）

（二之）○桜田（すむまろつるうし／うつめろう春之）○たの字（四之宮と一言とあり／ぬかうこそ一ちうら）

（こゝろて二ツ／右のまも同）○撮女（サツ）（一字にて一句嫌一座の名／鋼など見るゞ冬のまで三句の間之）

○撮人（サツ）（とて鬼之用る之二句人偏と鬼傘に季を嫌之ゑて／嫌人偏さもまあちらう）

○咲（サク）といふ字（花之傘と花の字のきも二句去ぐらし／其の花ともてまもらず）○さし

（いらう こゝ花と流之）○笹（サ）し（以除とのき七句嫌）○笹とし（まこの字縁之嫌／浦をもほむの嫌）

てるまの[illegible]傘とて なをさまに入てくし ○ 簦（竹にて作 [illegible]） ○ 山椒（さんしやう [illegible]）

山椒の粉 山椒の皮を山椒 ○ 暑の甚しき [illegible] 用る月と [illegible] の今 [illegible] 日に五百

[illegible] 傘と ○ 酒（[illegible]） [illegible] 白 [illegible] 四く

[illegible] の内 [illegible] 蚕の [illegible] 上 [illegible] 下 [illegible] 酔 [illegible] の [illegible]

[illegible] 又四く傘と [illegible] 一 [illegible] 或 [illegible] 行 [illegible]

[illegible] ちなとみちかなる [illegible] の内に [illegible]

[illegible] ても ○ 蚕（サム）[illegible] 行れ [illegible]

[illegible] 之 ○ 蚕 [illegible] あさ ○ [illegible]

の（ニイ）[illegible] 人 [illegible] ○ [illegible] 人 [illegible] 之 [illegible]（ゴセ）

猿猴（ヱンコウ）一 [illegible] 申 [illegible] 庚申（カウシン）[illegible] 猿の [illegible]

[illegible] 申の [illegible]

○ さめと [illegible] ○ 猿（サル）の字 二つ [illegible] ○ [illegible]（サミ）

[illegible]（ダい）一柩の石一万五千月の石と云 五千月石の柩 [illegible] 出る [illegible]

[illegible] 三の内 五千月石二 [illegible]

[illegible] 上 [illegible] の [illegible] ○ 漸 [illegible] 二 [illegible]

[illegible] 之 [illegible]

[illegible] 漸 [illegible] の [illegible] 一 [illegible]

[illegible] 莫 [illegible] 内 [illegible] 上

[illegible] 基後の [illegible] 三の

[illegible] 内く ○ 竹（サウ）[illegible] 一 [illegible] ○ [illegible] 注 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 書の

[illegible] 之

㋖ 祇園會（ぎおんゑ）の山 [illegible] ○ 起請（きしやう）[illegible]

○行人（かうじんなり／おこなひ物也）○きの字只二○岸（キシ）（只一二句去に二／うのゝしハ）表にきらし一座二おなしも四の内也○君（キミ）二大名のうちに人倫を嫌ふ二つの事折を嫌ふ人倫も嫌ふも折を嫌ふ名所ハ表を嫌ふらし君をハ八七句○木曽（キソ）に木の事二句去嫌ふ名の名二の折ハ又初表をきらし

○木と木（コ）木に一句二句去あり○禁中（キンナウ）内裏大内なと打越をきらふ

小宮をへてたつ一座一句ニ二旅ニ一共あり二句名の都の節句月名所との八月名所也又ハ秋の事也

都の京名所節句と名所下京旧名所上京下京新京平安城洛陽洛中洛外東京西京など其外九重など句ニハ九重と城のうちと名を嫌ふ一折も上あり

字ハ去るへし折と名所東京名所洛の三○黄（キ）の字四之○菊（キク）云ハ一句二座と菊の字菊いつきゝ菊から不菊門ほうしめくも秋ことにみえて折を

くさ二の折ハたゝ一句二菊の事なるを好く○菊のかうし名もあまの菊ハいつきにも秋なくなるを折を嫌ふ名の事○菊月（三）二句之○菊の淵（フチ）名所也

○几帳（ギチヤウ）に木二句嫌傘几帳ニ木の事不嫌木の名のかきへ○樵（キコリ）人倫之嫌木の事又嫌木○北（キタ）二方中少風にて去へし又ハ打越にも折を嫌

二句嫌こゝろ白の字ハ○金（キン）ニ金紗金襴風ホ布を嫌ふ○金銀（キンギン）一つきに打越と云て嫌ふ○衾（フスマ）（いかゞ）納に

折をへて嫌ふ○伽羅（キヤラ）沈香折を嫌○経（キヤウ）一名比経一座一ツ二句去而打越也又嫌ふ

衣ハ三句去ル旬にいふへし○碪（キヌタ）一衣うつ又嫌ふ一折衣ニ衣と一打越をへる二句之枕ニ枕も二句去と云ふ打越より二句去也

しのひこゝろの○きぬ〳〵秋ならハ二句傘より一衣又嫌ふ是ハ之句去ふへし

のちの月ともいふ　よしそれハ恋あるよめるに
全を別の事意のものハ二句去の事めくハ無くして
眺る花の事めくも去れる紀又去もの去れ云るてきて
うらんとも句のみハもつくのに皆夜の事にハ同字去れハ二句去つきて
○こよひきに月既の月（なの二句去）○さらさら冬ろうきしを（ちち二句）
○狐（キツネ）なあふえ会ひの物ハ三こまじきう傘と云ふ事ふ云て
旅の一あふし名所の狐川ハ狐の事にあらず
とくにはれば○おしも帯（ミズク）似て地の事に嫌
生ずもなみせず○霧（キリ）の
海露の海空の海
何れかな返ら也○霧の籬（マカキ）（嫌なて二句）
しめりや見えしを嫌（見て七句）○霧（嫌物）
傘に降ぬ嫌りゆるり○霧間（一ことらの隔）
一まる殉一脈の一正宮の嫌（えてもべし）○客人
りんとひも二の同く○駒の字（とをりにてかめ嫌　ことなハ七句嫌）

るるのるハ○白馬の迄（ますらかれ西の嫌）○聞（キク）れ取る
おもと嫌（生をみながれも嫌）
嫌口きうる即きて月こしてみきて○錦（キン）字の結去之○蟋（キリ）
人のきし気きてみちらちとも句く
蟀（キリス）一葉とふと又云之し傘と蟋蟀（シツツ）と漢（カニ）と云て一つ
足三く筆う事きもふ嫌ふるとても此のちく
○こやとる組出一人嫌卯（このみ嫌きり）○こうれ客（香にも去るのも）
卧も（まじめて）○桐（キリ）秋之出一揆に柏とあつて一句より二柏つぎ（ことらの柳の事をへの）
秋も極めしおよみ柏おりをえて
の一文たれ上ミし何れもおもと嫌○秋酢にかなる此く

（ゆ）

正月の白袖と（能もみんかりん）
ゆふて：こ汁紙しまりてる去ての○夕顔（ユウハニ　汁紙之ゐ迎く）

○雪　四句去物也降物ハ同前也もちろし一のには
うかぶものとハ月の夜の雪などの類ハ傘に
雪五句の内一ハ有てしかるべし　又雪の字ハ○雪白に
もし川　雪も有べし　万葉にも出たる河なり
みぞれあられ是也雪
降もる冬也○雪の花ハ秋にて非ずゆかし○夕の字を
ハく夕べ夕ニて傘にも夕の字五句一句去とありよみよみてハ
ごし　夕ア二句去物と嫌ふ　夕のかしら上八之有よみてハ
七句○夕立　一夕ふる雨とよみくし　夕のかたハ句嫌ふ
有く　のかたの事ハよまゝ二句きらふ
○夕づ月　ハ夕の月をいふ也かた○白雨（ゆふだち）ハ夏の雨の
夕立と白雨と書ても同じ　八兵衛の撰曲（かうこ）已法稽山谷が詩にも
とやされしうハ夕　梳筆（かきつめ）の付書嫌ふし　紅字之正字
あらし嫌ひてもよし　○夕まぐれ　夕暮の事古の
のとくもるべきなく　（夕暮も嫌）○ゆふばげある

紗十紙又有る傘に○夕月　一折を去て夏以月ならぐし又
おかとりのをとり　し　傘に句絆えて去嫌べし
○夕月　夜ふかし絶え夕アにも古歌の今日幹の○夕に　日かけし日影
書記の書　何れも二句去り　（在ハ不嫌月く）
らしの事○夕暮（くれ）　一夕去て書と○夕まぐれ　順節の村句ハ
ハ二句之　又夕るべし　不嫌又顔嫌
○夕闇（やみ）　夕の字此句之夕暮ニ三句去の字ニハ○夕顔（がほ）の宿（やど）
二句傘に宿の字面を嫌ふ
極めて傘に花とならて一夜とひやうんひさかめべくかどで
うちうち出かかまい以上二句去べし　夕かやの夕此字八の分之
○弓（ゆみ）　云之て二傘にこそ内一句ことゝ○弓に　ゆふけ矢
おもよそて去し何れも去之嫌　（おもと二句嫌）
○ゆふけた嫌　二句○床（ゆか）　ハあらん嫌とゝ○夢（ゆめ）　是之五句
ニハあらくし　有之嫌
秋うの上字ハ入てハ○夏うちよ　秋ハ嫌てもひゆる在
意ままらなし　去る句ぶなかえらり

組入てかゝつよりゝれてあくこゝろさまし○夢に うつゝねざめうちこく○夢 何れも二句去也

の世 おもふ折ハ但夢の世と云ハ○夢に 圓禄（ミヤ）おうさ 夕神ニより起りひらくさまり○夢路 むかし 脇七句之 ゆめく夢ハ二句之○行（ユ）に 向後帰る 少さ二句之○行末 一句 歌 一傘之 り末ニゆくへニゆくすゑ脇七句去り歌之 くゆくもしくハおりつを云しゆ○ゆくゑに ゆく面○行衛に云もく を嫌○揖山（ユサン） 山ハ花之 遊女 おも七句去り之○湯起（ユチヤウ） 意の表 おを嫌○湯 去之て四之○湯女（ユナ） 意之人倫之○湯起請（ユキセウ） 外ぎ去り

○夕ま山 名所かけす 其夕の山の事也○夕ま川 ハ肥後の 名所也

㋱ 名所とく 二句去○目 人の目とえて四之此去れ を嫌 月ニ生れの月面

嫌ハ名の月水のめぐみの月 何の月暮れんのめぐりの月ハ○月に 二句 之句去く 傘ニ人の月ニ七句去 数水山并さいめ木面ニテ

○盲人（メクラ）に 月面 を嫌○目の覚（サメ）に見る 不嫌○女まいきうひ（メヲト） 意之 人倫

○眠稀（メンゾウ）に寝（子） 七句嫌○めくら云 酒しろめぐりのめぐく松の外れを一つ云ぐ

㋯ 帝（ミカド） 法の字二句之 門ハ七句嫌○勅（ミコトノリ） 外字ニ水松○神子（ミコ）に 外七句 嫌

○御幸に 行の字 二句嫌○御後（ミツギ） 水辺之 外材之○みてぐら 幣の字 く法字之嫌

○巳の日の祓 水辺之 神祇之 巳の年ハおりを定てみる之○貢物（ミツキモノ） 法の字 二句嫌

○宮（ミヤ） 社二句去く 二字居の字二句去 女帳文面とえて又なくし傘て 文四之 神祇ニ句 帝宗ハ二組此内一ツハ宮なるべし 文 仕つハ裏ニ入ミし 宮の文 去りく 文経法の宮此木ハ 宮木ハ名所之 文帳 文ハ宮杜の文 二ツの内去り○宮に

[illegible]七句〇三熊野（ミクマノ）（[illegible]の事　二句さしあふ）〇御階（ミハシ）（[illegible]）
[illegible]七句し
みそしるこそ二句さそし[illegible]て[illegible]
句続よろしく[illegible]見て[illegible]べし〇都（ミヤコ）に宮居のある
[illegible]七句隔〇都（ミヤコ）（只二名所　二ツ）[illegible]
只[illegible]三句隔〇都鳥（ミヤコトリ）[illegible]水辺
〇峯（ミネ）只二名所二傘ハ峯一ニ門一ハ名所ニ壬生忠峯（タヾミネ）
人の名にも峯ハ山類に[illegible]峯と云字ハ両
[illegible]〇三日月の出るハ[illegible]月ハ日
月二季を[illegible]傘ニ三日
[illegible]〇水にみ[illegible]〇水ある
水の[illegible]何れハ三句去り
雑用の[illegible]〇みつれ（張二句傘ニ）[illegible]〇湊（ミナト）水辺[illegible]
〇[illegible]（ケムリ）に[illegible]二句く〇汀（ミギハ）只一名所二一汀ハ水二句と〇[illegible]
傘汀一名所二

法の御み一[illegible]傘と[illegible]御[illegible]
[illegible]
〇道（ミチ）に[illegible]傘ニ〇[illegible]
[illegible]三句[illegible]
[illegible]二句[illegible]〇霙（ミゾレ）に[illegible]傘ニみ[illegible]
[illegible]二句[illegible]
[illegible]〇みだれ[illegible]
[illegible]
[illegible]二句[illegible]〇蓑（ミノ）に[illegible]二句[illegible]傘[illegible]
[illegible]〇嬰子（ミドリコ）[illegible]傘ニみ
[illegible]
[illegible]〇身[illegible]
[illegible]〇三十（ミソヂ）[illegible]年（トシ）の字〇峯（ミネ）に七句
[illegible]二句[illegible]

降物上を出しも又同し一季に寄て ○見ルにうつろひかはしに付物 三ツ組めしの折ハ面をきらふ 二句去月も二句去とも ○東雲（しのゝめ） 二句去と云 ○身作 二人倫之傘ニ 去ともの文字二句去 さりくて ○短夜（ミジカヨ） 二句去やうき夜一座の内一 但夜分ハ夜を嫌ひ又一句去 こしく ○水底にハ 松ハ水辺 ○耳 ハ 身ノうき松ニ二句去之清 わかよき ○耳に のみ獣のことハよきぞくし 聞（キヽ） 二句去 ○耳に月も 句嫌

⦶ ○清水（しみづ） 夏也 傘ニ清水にきよき水色を嫌ふ清水とき 嫌清ちかく よき水事付句并嫌清水と清水事ハ二句 こる去らし ○白木綿（しらゆふ） 去嫌 神祇之 ○白七字 八之面二 とも云くて又向之白きてうくもの去七句嫌こく 四の去ハ打を 嫌里前ハ去らの結り去よらく去 俳ニハ一去嫌

らし傘之去ら去りてく出ら了に以上れハ白えるくりくこ去ら大かの白ら 八面と嫌去う去りくらくと云くてハ七句去く 去 の折ハさくくらむ 三句之九の折く ○鴎（かもめ） 只二去ニ傘と鳥二去而ニ以上之水辺也 水鳥辺山類を不嫌清あるらくハ川 其池 の中去鳥へしのさいさ此ハ水辺并去山類と嫌又清浜去たが 去鳥の國の名ハ大方山類水辺と嫌ふ又去のうち 浜鳥ら原（ヨモギ）逢う鳥室の八鳥水辺 ○敷島（しきしま）の道（みち） 於 三去 山類に嫌ハけ去又去のし 嫌鳥の字 ○鹽（しお） 二嫌浪塩二折とえてうさくしほ塩気の折 塩山（ヤマ）并去ハ裏こう去塩竈りしほの 同し ○塩月りとのしほ去ほうしき月のしほ 燒りし塩気む ○塩去こ七句嫌傘ニ去ほうしき月とりの のる塩やく塩之 ○塩 山 ○塩 山 群 の折去辺 三月し日付び松云絶面を嫌 ○塩山群 の折去辺 嫌ふ 去るもるどし去絶二句去 不嫌去去嫌 ○塩屋 居所 二句塩やき人倫も嫌ふる 山類 水辺并も去し嫌く ○雲 月

帝國圖書館藏

かりゆく○しぐれの隠(キ)と云○忍摺(シノブズリ)　うらみぬる也　名所也
二つらく　しのぶもぢずり又ハおも
を題○忍草(シノブクサ)　秋之恋　五月の内也○忍車(シノビグルマ)　恋之秘事也　車のうち也
○しのぶの山　恋　又ぬしをしのぶ名所也　奥州也　名所二句也○しのぶ
忍れあひしを題名所也　二句也○忍　四季之恋　名所也
傘ハ条水辺也　二句也○しのぶ(シ)
わすれ(?)ぬるとも　うらむる人ハ
おもふのれ後しのびて○しのぶ(?)
枝をおりけ○芝(シバ)　一時生植一世人一生捨一傘
て名もあり○しのぶ　極めを恋たる二句傘枝折
うぐひすを○芝生(?)　八日の六月ハ(?)名所
植も雪も秋也○芝生(?)のさき　折ふし中也
すゞ西陰也○志賀山(シガノヤマ)に　花を詠ての　○椎柴(シイシバ)
かゝる　○敷(シキ)　四季也　○芝の庵(イホ)　雑也

の秋之恋しき借り秋の寒さ二句也　傘ニ見ゆる
人えんもありしげりの秋の雨ハ二句ならべし
○しぐれ　時雨の雨ハ二度ニ　○時雨(?)　秋也　又ハ二句也
二つ也　かり也　しぐれの中ハ二句也
くの時ハ　○しぐれ　むかしの雨ハ二句也
二句也　むかしの時雨也　むかし
をしの(?)をとく○色(?)のしぐれ　秋之恋をも云ハ
おなじく雨ハ不残○色のしぐれ　山也
ならのしぐれ(?)　秋の草もむらくしく　○頭巾の
とりをもしぐれ　秋の紅葉のしハ口伝也　雨と紅葉の露を結び
又かゝる時でも○時雨(シグレ)　しぐれハ　山里の雨をうつす
しとふ(?)くゞり○時雨(シグレ)　二句也時の雨とふ　此事(?)ハ
ハなぐさめて一句○菖蒲刀(セウブカタナ)　菖蒲皮之水辺也　ならいの名あり
しぐれいふものハ二句よむべし

○精進（シヤウジン）（非衆ゝ似 ろゝ物までも一）○燭台（シヨクダイ）に（火も七句嫌）○将棊（シヤウギ）に碁石（ゴイシ）を嫌 ○尺八に笛を嫌 ○志乃（篠の類 竹を二句之）○將門しと云詞百韻に二句も去 あつまらぬ 戯事（ザレジ）ゝいづれにても一 傘に去つげし 両と嫌 ○下の字（四しげとなりともえくて四し傘ニ去さニ云て かくまて土ちく下ハ別ニ字なれハ五の五句嫌）○下紐（シタヒモ）（ことぐし下紐なてひもの前の二句の月ろうし）○下帯（シタオビ）（衣類の事ニおと嫌 紐の字ハ ニト 去之）○上戸（人倫ニ而すみ 二句嫌）○下女（人倫ニ二句之）○白拍子（シラビヤウシ）（人倫之 去之 嫌女ニおと嫌）○舅（シウト）姑（シウトメ）（おと嫌 姑ハ 二句嫌ニ日ぶ）○出家（衣裳之 人倫ニ而すみ）

○珠数（ジユズ）（衣裳 ろう）○撥に（俳諧かハし あつしのもの）○十番（ジフバン）（六）傘ニ而と○東雲（シノノメ）に（朝二句目のあとに二句之）○白髪（シラガ）（一五隔し 老ト可 六くて五く）○鹿（シカ）二句の二一とゝぐる一斎ハ ちく ハ表ニも ○麝（ジヤ）（五くとおも 二句のもの 康の足の右ろうし）○圓佛（ソンノ）の法を被り ろく守らんの事く雑之 傘ニ而 康のもの 句のと生而ハ 行ハ 句（?）ろうし ○芍薬（シヤクヤク）（一名ひすう ニ 去之 一つの之 前ハの夫婦をうたん）○師走（シハス）（三五 老若 師走）

寒土 通せ字の有ろうハ 大きく人倫く と嫌とつニ二て ハ嫌ものなくむし

（ゑ）

○繪（ヱ）（一張の書の末ニ而 これハ紀字 絵の杯）○繪馬（ヱマ）（ゑかき ろう 極の三句 生 前ハ）○海老（エビ）（海のもの 嫌）

其色深ハ紫 ○夷酒（エビス） 此称し夷近く両の義明
のよしいふらく 神の御事也
是ハ神祇にても又先両句の内にも不苦 夷（テキ） 福神也
ますまハ各別なれハ神にならず このゑびす
東夷南蠻西戎北狄の内又一句なるべし
争ずんバゑびすとよむべし ○夷緒（エビツヲ）
ゑびす 傘に 諸門府にても也 ○酔（ヱヒ） 一句の内ゑひ一舟に
あり 人倫に非く ゑひ一夜にてゑひ
一句まじし何れも ○擾（エゾ）の實（ミ） 秋にも大きく
竹ちおりと嫌 本のみハ秋にし

ⓗ東（ヒガシ） 三界東西南北と ○ひやうげ 非神祇の物
ゑろくてに又二 のるしだ花を
東より白くなりて ○常陸帯（ヒタチオビ） 非神祇也 ○姫（ヒメ） 女にして是一季也 姫
詠くるべし [illegible]
ゑびすともして二山嫌 [illegible] 又二何れ
[illegible] 又一上二
傘にも [illegible]

○他（ヒト）の國（クニ） 人の字に二句嫌 傘には ○獨（ヒトリ） 人倫に定義にて
人倫に非ず 一季に一義新也
ならいはず人倫に非ず 傘ハ獨と遣ても ○ひとり 新也
獨のまゝにハ定めずしてまならべし
獨と云同一字 ○下野 女の名 養人但名ハよらずべし
二字嫌傘等に用
居宮不 ○日に 月 なるの月なるは定年月も月
嫌 なしまる月なる月に 日と月 新月の字
あづくハ二句嫌日次の月ハいくらか二句嫌日次の日とハ嵩る月
宮ら字日異なる日ゑびすもちりすぎて日と云ゑのゝかハゆく
新年も何なしのまゝ傘に一句るみならむちなぐ ○日待（マチ） 非神祇之物
其外もてよくまの日ゑら嵩みなし候 非ずらし
○日のまへに 門と云ず詠のます ○聟（ヒヂリ）の代（ヨ） 人倫に非く
船まず何れも二句嫌
云傘とて 計 ○ひとゝ貝（ヒトゝ）音（オト） 賓（ヒンボウ）定なく ○ひと物 不定ニ二句
ハく用ゆ 由ほ非ずし まじく用

○日のし　是一日も不嫌何のづけ中にもあるべし傘に日のしとあるの字一又軽舗とあらば是ハ上五之字を字もちりても別の物なれば是二句のミく蝉ハ打越を嫌ふべしやうとて用ゆるなり

○光（ヒカリ）月日影（ヒカゲ）　雪月花松竹梅ハ嫌ひなしといへども雲をふくへて八斗に書ぐし傘に月星ニ一花雪に一霞隠ふ一又ハ是の字をもちりしにて一句上之ひかりともばかり八日の字こころえあるべし天気ハ二句なり

○霞（ゲ）花（ゲナ）　天気ハ傘に霞と申ハ天気のこころあるハ天気ハ

○一村　一村雨などの一文字ハ八つ之傘に一村ならのふるを村の一村ありとあるべし又一村とあるとも一句二字のまゝ

○久堅　是ハ天の枕詞なりもす笑ふでもあるも二句之傘に久堅のとあらバ二句の物ハくもる字をつけても久の字斗の事ハ久しおもと隠（ママ）する其なハ久と云ハ花の字の違ふ事始終の文字ハ所作事三句二句なりとあり

○火　八分ハ狐火螢の火ハ七句嫌傘ニ火ハ以上五句一ハあるにハあるも別の句を嫌ふ物ハ火四の内にあると是も侍りし五の火と嫌ふハ七句去べし

○火にも新二句嫌ふハ一句あり

○檜原（ヒバラ）　只一様垣又去ぐし傘に檜の字ハ二のかハるべし

○人の名　からうたのまそと云へばハ云ふ物の名ハ云ふ人の名ハ其にもあるべし辞に作り入る縁の人ハ用ひし遠くの名を隠する人なり是も代の家内名をもよみなる

○一葉の船　様に傘に一葉の名舟のみの様にれ又

○大鏡　屋紙

○屏風（ビヤウブ）に　凡二句

○氷室（ヒムロ）に　おもひも嫌ふべし七句嫌傘にも又遠く氷にもつくをひやゝかとあるもこもり七句嫌ふてもひかりおひと云ふて同じからずれ面も短句御をうくおそく二句去べし氷室ハ四月一日より九月迄近く嫌ふべしなれど二月一日もうんぜしと用ゆるゆへなり

まかく鳴るなし八誹傘にろもを経之

えらて何をるすんひむろの香に於てう○むくとう引

本ヨ梁ゟ半一葉かくのをく○ひとふる衣服○雛（ヒイナ）

うるされ八同二句云し

乃松び生死よ至経ひと一句のみに上二之名の籍と目字

く星も二之ひるの紹ひるの様に管別之字も二段じ

○ひろふひろきし（るじ名同に生死に迎たる二句経松庵標 存信ふする句解ありく八西梅花石経）

○むやう（二輪之傘に御秋之山ゆる ひやうく路用之秋之）○ひ之服（初句雨 静之）

○木紀と説ゆす（ふじて云八）○百の字二之○樹（ヒサキ）

只二之句解之上○引板（ヒタ）（秋之猫のあにありする鳥をとく ふ之只二リの字板此字あ之句経）

るべし

ゐるこ契りて秋の田

あふてひたとならはさ

㊂紅葉（モミヂ）（一ツ木の紅葉一葉の橘八秋の之 みぞりぬこし云八天の川のまくふく浦す紙）

紅葉す○紅葉木に（色とめて二句経松の起言に色揀八句の傘 にんの加らぬあらきんらあきこ八紅葉）

秋と経

みおりで○もとぢに（楓香の之）○紅葉に（とばをうつ 対山の色之句）

不経（色と経）

○藻（モ）深にすむ虫（鶉之 鳥辺之）○もしおぐさ（極多く多公の ふるのしてう八極海よ）

秋八畝（カミ）云○もとづ（之毛て紙之傘に）○最上川（モガミ）にのぼる

まくく風之（之毛三句之）

綢二○もしれひ（綢二句 時か）○乗じなの滴りの句（二句経）○守（モリ）

句之

の字四○股（モモ）と実（ツク）（色の紹之俳 句御之字じ）○物思（モノヲモヒ）に（物の字思ひの字み花 二句経 襟ナモか）

字句れづ之物と思ふてとえる○物と（ごく云 二十句之）○物狂（モノグルヒ）

入て八物もも思ひとも之句之

（人倫にゆるさず嫌ふべし人倫に嫌はず）○文字に（其句嫌ふ嫌ふべし）○川跡（三句去也人倫不嫌）○百千鳥に（嫌ふを嫌）○鵙（モズ）の草ぐき（秋也秋に嫌ふ八句去也去りかへして八句之余一句也）○催（モヨホス）（是ハかへりて八句嫌ふべし）○もの経し（上の句下の句の事に句一つゝ也余に上下七句こへて）ことく○森（モリ）只一名所に一座二句也（名所にかへ九句上二也）○百敷（モモシキ）一句の事（八句去）○武士（モノノフ）一座（武家武者武士の内に出すべし）又一つ見るべし国がらの名の字ハ（句をへだつべし）○もろこし（其外唐国とみるべし）震旦（シンタン）漢（カン）も同じ

㊉せ 仙人（人倫に嫌ふ山類に嫌ふ也）二句人の事にて句去る也○蝉（セミ）（只一句也夏を嫌ふ）二句べし内一つハ句をへだつべし○関（セキ）（只二名所をへだつべし又ハ山類とハ）人月関

嚢ハ何べし一座一句也四の内なりとも○一笄にきゝて又一笄とも斗ハ折に（四の内ニ一句也）之も上云一之傘に水をへだつ洞のせく否ぶきともせく水の内に二之井と此も二句の内く○せんと云（地）きゝへ洞の事二句ハ嫌ふ也○瀬（セ）句をへだつ○雪山（セッセン）（天竺の名也新式山類）二句嫌ふ一二句ハ雪山を子といへ山類に嫌ふなり

㊉す 住吉（スミヨシ）の神（名所也傘に住吉ハ神と云ふ名所名所に嫌ふ也）新式の正○末の松（名所也陸奥の末の松山）奥州の名所也○諏訪（スワ）の祭（マツリ）（能く一笄の内に）○杉（スギ）（一むらの杉又杉の名所の杉ハ杉木也）一傘に杉の内に一○杉の窓（マト）（又窓に嫌ふ杉村杉と）以上三く○冷しき（スサマジキ）二之涼しき

夏ニ一秋ニ○簾（スダレ）ニみて一句笠一傘連ニ一なれバ俳ニ笠一
一り（句笠むきぐれニて一又笠中へちでの内）
二ツ上○洲（ス）と（句て句隔傘ニ例ニ）○菅（スゲ）（水辺ニ飛ズ傘ニ）
二く（名所ニ一）（夏是一まけ笠）
まつらの菅などを笠ニ近ホの内ニ一ヨ句ニ○すゞしさ（春秋ニ）
夏承代夏家なども夏ニ一其上ニ忌し
○酒（ス）呂二ま渡の呂二○栖家（スミカ）（住の字二句）○すいかな に住
まを字かニ二句ん（家ニ忘ん）
字の字を二句ん栖ニ住○墨染（スミツメ）墨筆墨漆墨染衣
名ニ面を瞬つべし（スイタイ）
ごし眉墨とて翠黛の山ちごくなニ存べし○涼しき
まつて林とあり又夏時ハ墨面を瞬ゐり
冷（スサマ）じきて（夏ニ二句）よしむに○涼しき
二句ようし（わやうしも月）
枝つわのるりニ○数寄（スキ）と二度笠一まへ名やみぐらて二句
住まずハ雑ん（みぶし傘ニ笠二ツ上四ニ句）

ハ往別をつの袋ニまろてつん衣紙種取衣ニ○墨染
まつらハやけの結て其みきて落ちり
の袖ちり（武蔵）○すゞりて（まさる）二句ん○すゞれに（赤の字ニ二句）
二句ん傘ニ硯（スツノ）のくなニ下の字ニ句○捨（ステル）の字（ニ句）
ましくハおを近づし山おゑ飛ズ
に世とまつるハ○すゞれに二句近○すゞしくに
面やまし中
どれハ二句○炭（スミ）を焼（ヤク）炭ちの南に山家ニ○捨ての
に衣山（ヨスガビト）山家ニ○炭やも傘ニ多し○炭一まとやま
どりと近ハ○炭やも傘ニ多し○住吉ニ年ハ
一ツ上ニ○住吉ニ年ハ名辺の飛ズなり素と水辺と
名所名所で飛ズ新式ニわれバ衣しらべ
し、よあ辺るべし みさらの及ニ山を

うしろ住よしとかや ○ともしにてあくらいむし れなる[illegible]などそ住吉をあくら
つらハ多かりうらし
井辺藂李帽苦肥（セイヘントシテクヌヱコモハナハダヨヘタリ）ともいふ細山谷が詩になり陸李をあくら
まなく李はまむ出きし給ふもハよし付拘なりけりへよう
のをさむやう去てさまだいもの香にそのあはあこの経を
桑蚕と書く桑と同字なるべし ○洗簾（スダレ）
のゝ罘（セキ）ともいふ鉢山形の飛ス傘二席の下に八字をあろう
經のあなかけやちかきに文字をあらはれ八面よとの経
○酖（ス）と一つくらぬ也 ○跂虫二秋之 ○硯（スヾリ）一名乃
ぬるいからべし 頃の数
まこと ○むこんです 其の宮の頭人経のかぬせ
有るを ○司（ス）僕（マイ）秋のこゝろ使とみる七月下旬に門裏より
○才（スヘツム）摘（ハナ）花 おもうりこゝろつゝひの呼りし 湯ぐるしき
花（ハナ）花 苦しきしの為之人の名を ○さゆずるし
えあるみかく八競くる申に飛え

まへ船をおき紙子ホの表文字面に一つ有てそ糸の字を
書しより後にかく名あきる詞のまるな字と見えたり

○草木乃異名并引寄

○かいなく草（正月一日歸の上く玄大己に） 咲草の中ゆるぞやさしかりしく以て細ふそうえつゝるの歌

○初代草（正月二日内裏にうゆるに） 大内や千歳を人のいはれてるゆかし代草

○[illegible]草（松） 年こされみどりの色も文月こそなかゝらぬ草の名をはめづらし

○千代見草（松） 氷山のゆめにうゆる千代見草うへまさきそ此調とのかなし

○[illegible]くさ（は） 住吉や岸のほとりの蓬生もあはれに見る人をまち

○根白草（は） 歟陳む雑神ふゆにさらし根白草降りて

○ここのへ草 [illegible]（さくら）[illegible]

○夢見草 [illegible] 見る人や [illegible] 夢見草（さくら）[illegible]

○仇名草 [illegible]（さくら）[illegible]

○手向草 花よりは [illegible] [illegible]

○一夜草 一夜のうちに二葉 [illegible]

○一夜草 一夜草 [illegible] [illegible]

○二葉草 二葉 [illegible] 人 [illegible] 目の [illegible] あふひ [illegible]

○あけ草 [illegible]（雲の音）[illegible]

○三枝草 大内 [illegible] 宮の [illegible]（檜木）[illegible]

○河高草 [illegible] 風 [illegible] 河 [illegible]（柳）[illegible]

○二季草 [illegible] 二季 [illegible]（藤）[illegible]

○二季草 何 [illegible] [illegible]

○清酒古草（三月三日に酒へ入てのむものなり）のむ人や千代 [illegible]

○根白草（芹の異名）[illegible]

○山根草 山根 [illegible]（蕨）[illegible]

○神見草 [illegible]

○雪見草 [illegible]

○姫見草　降るこそや晴りまし姫見[illegible]
（卯の花）菜種咲[illegible]山里の路
○形見草　我思ひけりて花の咲あふ
（きさうさ）うすみ[illegible]何といひて[illegible]
[illegible]草[illegible]や[illegible]の
[illegible]くの[illegible]
○貌吉草（杜若）[illegible]の中[illegible]
[illegible]紬[illegible]
○雲見草（あふちせんだんの木）山[illegible]かゝる雲見草
[illegible]
○庭古草（こけ苔）梅し頃ハ昔の庭[illegible]
咲る花のそのしの思ふ花よ
○露待草（夏田）水うけて秋待[illegible]
[illegible]
○[illegible]すけ草　そよくし[illegible]田の面や[illegible]
[illegible]刈
（月）

○池見草（蓮）[illegible]花や[illegible]泥みけ[illegible]
[illegible]
○[illegible]草　なつひ[illegible]萩や咲[illegible]
（[illegible]）[illegible]風の[illegible]
○[illegible]草　萩咲ハ涼のや[illegible]
（[illegible]）[illegible]
○庵[illegible]　五月雨や[illegible]庵の[illegible]
[illegible]老の[illegible]
○水[illegible]草[illegible]
（[illegible]）[illegible]
○吹[illegible]草　大雨や[illegible]の水[illegible]
（あやめ）柳しくハち[illegible]
○光[illegible]草　夜の[illegible]
いり　[illegible]
○火借草　[illegible]川　せの浪[illegible]
月の[illegible]
（[illegible]）

○萩浪立る（ゆふべ）よくとまらし川の夕暮月に萩の浦にしも月出まつ

○不可思草（ゆかん）名牛ハ咲ても名のミ也花さくみゆハ何とミまし

○名取草（月満て至る蒼）折人の名をしり今名とり草見ゆる時ハそらにあくる

○見息草（またも）みちのくの思子の里のあさる山あさらの浪よりこそまうで

○夜白草（大豆か見ゆらんあり）ひるよれ曇しハみくさよ白る草うりそのさかれ花の夕へハ

○山吹草（小豆花）いさ草いろみえ風ふるらんつまハ咲きも曇しくぬふ

○深著草（永川丸）さし深ハ山の菜よみつ〳〵見てもみ草を風の夕暮

○手刷草（翁）手をつける草人の歌見て成りとハ浪のそらぬ時しものをうらし

○風路草（おもひで）露をてらす夕への色の風ちらしゆ朝をし袖を月ア生まし

○風音草（月）そつめまし浪の夕ん風うらる草夕卯の心やるや関の月影

○御見草（萩）うつ露うけて置けるを心ろ草こまよみの夜れ萩とかりく、ハ

○夜見草（日）夜ぞ見をも咲き仲る此雲こととりしの麻をうつしぬ中し小

○信濃草（日）花咲くハつまるる人もここち仲名あれハ人かちらん

○紅葉草（廉）時雨ふる田の山れ紅葉も見ゆるの紅葉鳴てかや紅

○露ぶき草（こゝき）我宿の庭にすなしあ草佇まる中風や吹くし

○浅沼草（見玉）水ハ流し風ふしてみえ浪ハ立し一もかこゝ思折みそくの色く

○松むし草 むつれハ萩紫の雲かくしけり
らくそ　うつる露こゝろ玉とゝまらし　九

○庭忘草 吹風の音や破れし庭忘卿
ともを伎　茎しけ中のしめしめの露

○鏡乃草 唄 はかなきりけふる鏡草の
なにとふ木　切みか草も見えはける乃中

○夕張草 為ならて秋の露比咲かうしや
内　夕かけ草とていふなし

○思草 頭かりし野辺の原の思ひ草
世亭若　我ならぬ花の影とも

○形見草 あふ人を折ても思ふ心ろ草
草木　霜下りて後枯やこゝろ

○百和草 名もしらぬ花の香りも
日　蕊咲て[illegible]

○ちる金草 [illegible]
[illegible]

○河玉草 秋の字ハ芸ゝるみの刈
作の香　川玉草に去かハ一きの流

○夕玉草 月 ゆ玉草の秋の字とし
日　まつ霧夜の福かの成うし

○言花草 時雨 こかねかなみ花そこる
こき　秋に河原て苔や流れる

○秋出草 秋の露しそて出る秋の中
まこるかの思ひ石之　うこるへてみ露るけさはれ分菊の

○神無草 神無月を咲てかこも川ふへ
ふき咲草　ちと紛て花紀とこらし

○ひとりかへる月かけまるの水をいふ流れ
そこしし氷の具承

○[illegible]
緑やし御前の露か風とも
ふかうしう狂何かれたる刈

○親子草 年毎に太鼓かな生ゆる親子草
出うるう九　たのしき人や咲くらん

○六り花を風に吹かれてちるなりけり 手折りし袖にも香のうつる哉

○雑の部

○夕見草 打ちかへしては夕べ哉 心 月や今宵の空に晴しん

○暮見草 花と月とをいかにせん 日 山の端にかゝる雲にいとゞ

○朝見草 霞に晴る月と山の端見え草 日 まだきより秋の曙

○打見草 打見し花の雲のかゝる山とてあり 月 なくさみの夕べまつあけぼの

○梅見草 梅の見る草袖にまつはる 日 渡しよすがに匂ひし思ひ

○桜見草 見るさくら世にをかし桜木の 日 代の外まさに枝を知り

○戀種 日 かくなし八千代も行く山吹の きはしは袖の間ちりて祭

○同じ種 日 月 かくして詠えるしるしなれ絆 思ふれば縁の物にて候

奥書の追加

此拙著のかしらに萬巻のさきより来

をとゞむれば首をふみつゝ祭

あまた朱丹にてまふや帽子に

なかしをまつりをもし千

手鏡ぞ踏の入道と知りを

をくはくとは下手に下戸
勝ぬは手に上手をきらふ
かこらし蛸ハかれなり觀音が
ほまふひらきまして千手
千手多き蛸乃入道一夜を
とゞめし能ふまゝなるに
飛ふ是をおのぶに觀音が
清浄懸かくし銀るの云ひ

のするがしらふハ尻とはなくまも面
またなる人を酔いふり耳にきく
鼻よりこの下に口にしるひる目が
見ゆるハ手まゆ何ゆゑか幸あれと
きゝまはぬをきときと歯ぐきの眉ハ
面と婦の眉除とのし是に
なりしえ

文化十一甲戌春再板

白兎園藏

[illegible]冊一年千三百つ一

六